

四 中国へノ兵器供給問題	二六八
五 三井物産株式会社ノ中国無線電信局建設契約問題	三二二
六 南潯鉄道関係	三九〇
七 四洮鉄道関係	四一一
八 对中国文化事業関係	四二九
九 臨城事件	四六二
一〇 広東政府ノ関税剰余金分与要求問題	五九六
一一 中国内政関係	六三一
付録 日本外交文書大正十二年第二冊日付索引	

事項一 大正四年五月日中兩國間締結条約ノ効力問題

一 一月十九日（発）在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中国参議院ニ於テ二十一箇条条約無効宣布案
可決ノ件

第二号

十九日午後参議院ハ緊急會議ヲ開キ衆議院ヨリ送達シ来レ
ル日支協約二十一箇条無効宣布案ヲ滿場一致ニテ可決セリ
尚参議院ハ直チニ此趣政府ニ通達ノ筈ナリ

二 一月二十日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

遼東半島還付問題ニ関シ仏国公使ヨリ問合ノ
件

機密第五七号

大正十二年一月二十日

在支那

特命全權公使 小幡 酉吉

一 大正四年五月日中兩國間締結条約ノ効力問題 一 二

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本使微恙中先達仏国公使吉田参事官ヲ来訪ノ砌支那側ノ遼
東半島回収運動ニ談及シ日本側ノ意向ヲ尋ネ候ニ付同参事
官ハ日本政府ハ支那ノ請求アリトモ之ヲ峻拒スルコト疑ナ
キ旨ヲ答ヘ候処仏国公使ハ「他国トノ租借条約ニハ規定ナ
キモ露清条約ニハ二十五年ノ租借満期後続借シ得ルノ規定
アルヲ以テ差支ナキ筈ナリ」

ト語り候

右ニ対シ吉田参事官ハ左ノ通り挨拶致候

露清条約ニハ貴説ノ通二十五年ヲ以テ租借期トシ満期後
続借シ得トノ規定アリ而シテ日支条約ニ於テ右租借期ヲ
九十九年トシタルモノナルニ付右九十九年ノ満期後ニ於
テ続租スルコトヲ得ル次第ナリ

右説明ニ対シ仏国公使ハ首肯シテ辞去致候

右何等御参考迄ニ報告申進候也

一 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題 三

三 一月二十一日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

新任米国公使館参事官「ベル」氏ノ米國政府
ノ对中国態度、中国ノ遼東半島回收運動等ニ
関スル意見報告ノ件

機密第五八号

大正十二年一月二十一日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

米國政府対支態度ニ関スル件

昨二十日北京俱樂部ニ於ケル英國人未婚者達ノ催セシ舞蹈
会ニ於テ群集ヲ避ケ元英國及本邦在勤ノ新任米国公使館参
事官「エドワード・ベル」氏 (Edward Bell) 酒場ニ於テ
酒ヲ飲ミナカラ例ノ調子ニテ吉田参事官ニ語りタル要旨左
ノ通りニ有之候

一、最近數年間好意ヲ以テ支那ヲ援助セシモノ米國ニ若ク
ハナシ現ニ極近來ノ事ヲ云ハハ米國ハ青島回收ニ尽力シ
支那ノ希望セシ外國郵便局撤廢ヲ世話シ又先頃伊國政府

セサリシ処今回支那ニ來リテ初メテ之ヲ解シタリ

四、在本邦米國大使館付陸軍武官「バーネット」ハ過日書
ヲ寄セテ曰ク「日本官憲ハ或ハ余ヲ目シテ間諜トナシ居
ラム同官憲ハ余ヲ何ト考フルトモ可ナリ兎ニ角余ハ誰ト
deal with セルカハ知了セリ貴下ハ支那ニ於テハ困リ居
ルナラム」ト実ニ然リ支那ニ中央政府ナルモノ存在セス

五、米國政府ハ必スシモ四國借款團前貸問題ニ氣乗リセル
ニ非ス(此点ハ同氏研究シ居レルカ不明ナルモ多ク語ラ
ス機ヲ見テ本使米國公使ト談話スル考ナリ)

六、日本ハ青島及西比利亞ヨリ手ヲ引キタルハ賢明ノ策ナ
リ日本ハ支那人カ大騒ギヲ為シテ獲タル後ノ青島ノ行政
何ノ様ゾト嘲笑シ得ヘシ西比利亞「ボルシェヴィック」
ハ東支鐵道占領其他ノ為或ハ兵ヲ滿州ニ入ルヘシ日本ハ
曩ニ西比利亞ヨリ撤兵シ clean hands ナルヲ以テ滿州
ニ於ケル日本ノ利益脅威ヲ受クル為メ新ニ出兵スルコト
アリトモ世間ハ之ニ對シ非難ヲ為ササルヘシ

七、(夫ヨリ談ハ支那ノ遼東半島回收運動ニ移リ吉田参事
官ハ「日本トシテハ到底斯カル要求ニ応セス断然之ヲ拒
絶スヘキ」旨ヲ説キ「米國側ニ於テ誤解ナカラムコトヲ

一 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題 三

二

カ支那ノ関稅現実五分同意ヲ肯セサリシニ付同政府ニ迫
リテ同意セシムルニ至リタルハ実ニ米國政府ナリ支那政
府ノ米國ニ負フ所斯ク甚大ナルニ拘ハラス彼ノ張家口事
件ニ對スル支那政府ノ態度如何「コルトマン」ノ射殺セ
ラレタルコトハ支那政府自ラ認メ居ルニ拘ラス「コルト
マン」先ツ自ラ発射シタリナト事実ヲ捏造シテ本件ヲ有
耶無耶ニ葬ラントスル態度ニ對シ國務長官ハ狂氣ノ如ク
憤怒シ居ルニ付如何ナルコトアリトモ脅迫ヲ加ヘテナリ
トモ米國ハ満足ヲ受ケサルヘカラス

二、支那ノ外國留学生ハ軍閥ノ手先トナリ元氣ナク駄目ナ
リ新任外交總長施肇基ノ如キ米國留学生ニシテ rice
man ナレトモ云フニ足ラス現ニ米國公使ハ過日一時間
許リ嚴談シタルニ夫以來病床ニ在リ(右ニ對シ吉田参事
官ハ「施總長カ米國公使ニ迫ラレ窮余ノ身病ト称セル訳
ナルカ」ト尋ネタルニ)否感冒ナリ(此処要領ヲ得ス)
三、華盛頓ニ於ケル山東會議中出淵参事官ハ支那全權ノ態
度ニ憤慨シ「此會議ニシテ北京ニ於テ開カレシナラムカ
日本側ハ疾クニ堪忍袋ヲ切ラセタルナルヘシ」ト語りシ
コトアリ當時 Lampson ハ首肯シタルモ自分ハ之ヲ了解

希望ス」ト述ヘタルニ對シ)此運動ハ顧維鈞ノ發案ナリ
余等ハ善ク前後ノ事情ヲ知レリ租借期間ノ延長ハ日本カ
最後通牒ヲ与ヘシ前支那政府ニ於テ既ニ同意シ居レリ故
ニ支那トシテハ今更之ヲ兎ヤ角申スコトヲ得サル筈ナリ
他國カ欧州戰爭ニ没頭セル時ニ當リ日本カ他ノ事項ニ付
脅迫ヲ支那政府ニ加ヘタルノ可否ハ別問題トスルモ租借
期間延長問題ハ前述ノ通りナルニ付此点ヲ日本側ヨリ速
ニ宣伝スルコト得策ナリト思フ(之ニ對シ吉田参事官ハ
本月二十日機密第五七号拙信所載ノ理由ヲモ述ヘ露清間
ノ原條約ノミニ依ルモ尚二十五年後ニ續借シ得ル訳ナル
コトヲ語りタルニ)然ラハ二重ニ理由アル次第ナリ

右「ベル」参事官談話中ノ「租借期間ノ延長ハ日本カ最後
通牒ヲ与ヘシ前支那政府ニ於テ既ニ同意シ居レリ」トハ元
本邦駐劄米國大使「ウォーレン」氏モ伊集院閣東長官ニ語
リシコトアリ(閣下宛同長官電報秘二〇号)此点ニ関シテ
ハ米國國務省及在外米國公館間ニ多少連絡アリシモノカト
推察セラレ候

右何等御參考迄ニ此段報告申進候也

編註 閣東長官電報秘第二〇号ニ付テハ日本外交文書大正十一年

三

四 一月二十四日(発) 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大正四年日中条約廢棄ノ中国側動向ニ対シ日

本政府ノ態度表明方ニ付意見稟申ノ件

第六三號

滿州ニ関スル大正四年日支条約廢棄案ノ曩ニ当國衆議院ヲ通過シ今回又參議院ニ於テモ同様ノ決議ヲ通過スルニ至レルコトハ既ニ御承知ノ通ナル処本問題ハ目下ノ処内外人共余リ注意セズ其人氣ヲ煽ルコト山東問題等ノ如クナラザルモ本年三月旧露國ノ条約ニ依ル租借期限満了ノ曉ニハ多少ハ人心ヲ惹クベク且ハ顧維鈞王寵惠等本問題主唱者ノ多クハ目下野ニ在リ失意ノ境遇ニ在ル折柄本問題ヲ提ゲ其人氣ヲ回復セムガ為運動ヲ開始スルコト必定ナルベク將又支那政府トシテモ事ノ成否如何ニ拘ラズ參衆兩院決議ノ次第二鑑ミ一応交渉ヲ提起スルモ何等損失スルトコロナキ次第ナルヲ以テ自然民間ノ硬論ニ動カサレ来ル三月中ニハ帝國政府ニ対シ何等カノ形式ニテ該條約ノ廢棄若クハ修正ヲ要求

参照

五 二月十五日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

中国參議院ノ二十一箇条約無効宣布案可決
及ビ旅大回収問題ニ対スル民間ノ動向報告ノ
件

機密第一八四號

大正十二年二月十五日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉

外務大臣 内田 康哉殿

旅大回収問題ニ関スル件

客年十一月一日衆議院ニ於テ議員張樹森ヨリ中日二十一個
条協約無効宣布案ヲ建議シ滿場一致ヲ以テ可決シタル上參
議院ニ回送シタルモ參議院ニ於テハ議長選舉憲法制定委員
会等ノ重要問題多々累積シタルニ原因スルヤ將タ何等カノ
理由アリシカ右衆議院ノ建議案ヲ容易ニ議題ニ上ササリシ
ヲ以テ一月十七日ニ至リ更ニ衆議院ハ緊急会ヲ開キ決議案

ル由ナリ(一月二十一日付機密往信第五八號)就テハ日本
帝國議會ノ開会中ヲ幸ヒ議員ヲシテ本問題ニ関シ質問ヲ為
サシメ政府ハ最簡明直截ニ(一)大正四年ノ條約カ國際法上動
カスベカラザル効力アルモノナルコト及租借地及滿鉄九十
九年延期ハ最後通牒提出以前支那ガ最無造作ニ快諾セシ當
時ノ事情(二)勞農露國ノ前途ハ如何ニ落著クベキヤ不明ナル
モ最近ノ實際ニ徴スレバ露國ハ支那ニ対シ着々 aggressive
policy ヲ踏襲セムトスルノ狀アル今日日本ノ租借地及滿
鉄放棄ハ滿州ノ赤化ヲ促進スル動機トナリ日本ハ國防上非
常ニ危險ナル地位ニ曝露セラルルコト(三)滿州ニ於ケル馬賊
ノ横行其極度ニ達シ秩序治安ノ全然維持セラレザル滿州ノ
現狀ノ下ニ日本ガ滿州ヨリ手ヲ引クニ於テハ過去十八年間
ニ日本ガ投下セル莫大ナル資本及事業ハ全然粉碎廢滅ニ歸
スル他ナク是到底日本ノ堪ユル能ハザルコロナルコト其
他適當ノ理由ヲ敷衍シ帝國ノ本問題ニ対スル態度ヲ公式ニ
發表セラルルコト頗ル事宜ニ適ヒタル措置カト思料ス
右ハ政府ニ於テ既ニ御考慮中ノ儀トハ考フルモ思付ノ儘愚
見ノ次第實聞ニ達シ置キタシ

編註 日本外交文書大正十一年第二冊、一六七文書(二〇〇頁)

トシテ參議院ノ急審ヲ要求シタリ茲ニ於テ一月十九日參議院ノ議題ニ上リ討議ノ結果(一)該協約ハ脅迫ニヨリ成リタルモノナルヲ以テ國際法ニ按シテ当然無効ナルコト(二)該協約ハ未タ国会ノ同意ヲ經ス約法ニ按シテ当然無効タルコト(三)該協約ハ屢々政府代表ヨリ上述ノ理由ニ依リ國際會議席上ニ於テ取消ヲ聲明シタルヲ以テ当然無効タルコトヲ決議シ終ニ本會議ニ於テ委員報告ノ通り可決シ引続キ二三議會ヲ開キ可決シタルヲ以テ其旨衆議院ニ通告スルト同時ニ一面別紙甲号ノ通り國務院ニ咨達シテ該協約ノ無効ヲ宣布センコトヲ請願シタリ国会方面ニ於ケル形勢斯ノ如キニ反シ一般ノ言論界ハ頗ル靜肅ナリシカ東三省方面ヨリ一二各界ニ宛テタル通電ノ発セラレタルアリ次テ東省旅京學生ノ大會アリテ(一)旅順大連ノ回收問題ハ山東問題ニ比シテ重ナルヲ以テ即日国内一般ニ通電シテ全國輿論界及國民ノ注意ヲ喚起スルコト(二)東三省學生連絡シテ旅順大連回收後援會ヲ組織シテ政府ノ後援タルコト(三)代表ヲ選出シテ北京各団体ト接洽シ期ヲ定メ國民大會ヲ開キ民意ノ解決ニ付スルコト等ヲ決議シ又吉林外交後援會及旅大居民大會ヨリモ別紙乙丙号ノ通り通電シタルカ其ノ内容ハ何レモ大同小異ニシテ畢

該條約無効論ニ付報告ノ件

機密第一八五号

大正十二年二月十五日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

曩ニ支那衆議院カ国会ニ於テ大正四年所謂二十一個条要求日支協約及交換公文等ノ無効ヲ決議シ之ヲ中外ニ宣布スヘシトノ決議案ヲ通過シ之ヲ參議院ニ咨送シ来リタルニ對シ同院ハ一月十九日ノ會議ニ於テ(一)該協約ハ脅迫ニ依リ成立シタルカ故ニ國際法上当然無効ナリ(二)国会ノ同意ヲ經サルカ故ニ約法上当然無効ナリ且(三)政府代表カ上述ノ理由ニ基キ國際會議ノ席上ニ於テ迭次之カ取消ヲ聲明シタルカ故ニ当然無効ナリトノ三理由ノ下ニ該決議案ヲ大多數ニテ可決シ茲ニ同案ハ国会ノ決議案トシテ政府ノ裁決ヲ仰ク為既ニ呈請濟ノ旨ハ二月十五日付機密第一八四号拙信ヲ以テ報告ノ通ナル処右ニ關連シ日本ニ於テモ新聞雜誌等ニ於テ本問題ニ關スル論議漸ク盛ナラントスルヤ支那側ノ応酬亦漸ク抬頭シ来リ就中外交時報一月号ニ掲載セラレ

竟スルニ旅順大連ノ租借期限ハ本年三月二十六日限り終了スルヲ以テ既ニ国会ニ於テ該協約ノ無効ヲ決議シタル上ハ國務院ヨリ日支協約ノ無効ヲ中外ニ宣布シ速ニ政府ヨリ大員ヲ選派シテ旅大ノ回收ヲ掌ラシメ以テ金匱無欠ノ国土ヲ恢復シ幸ニ亡國ノ民タラシムル勿レト云フニアリ之ヲ要スルニ旅順大連回收問題ニ對スル支那側一般ノ輿論ハ比較的平靜ニシテ帝國議會ニ於ケル議員ノ質問ニ對スル加藤總理大臣並閣下ノ説明(別紙丁戊)等ニ對シテモ当地支那新聞ハ一々之ヲ記載シナカラ何等論難スル等ノ反応モ無之勿論時日ノ切迫スルニ伴レ或ハ言論界ヲ賑ハスニ至ルヘキモ今日迄ノ処当地ニ關スル限り表面ノ形勢上記ノ通りニ有之候間此段及報告候也

本信寫送付先 天津、奉天、上海

編註 別紙甲乙丙丁戊各号ハ見當ラズ

六 二月十五日 在中國小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛

大正四年日中條約ノ効力問題ニ關スル末広博士所論ニ反對スル北京デリーニユース社説

タル矢野文学博士ノ「遼東回收論ノ論理」及末広(重雄)法学博士ノ「旅大還付ノ条件」ト題スル二論文殊ニ後者ハ執筆者ノ京都大学政治史外交史講座担任者タル地位ニモ鑑ミ支那側消息通ノ注目ヲ惹キタルモノノ如ク北京「デリーニユース」ハ右末広博士ノ論文ヲ記載(別紙丙号参照)スルト同時ニ「一九一五年條約ノ効力」ト題シ一月二十四日以降四回ニ亘リ主トシテ同博士ノ所説ニ對シ支那側主張ヲ力説致候右ニ拠レハ漸ク支那人ノ注目ヲ惹キ来リタル遼東半島還付問題ハ畢竟スルニ二十一個条要求ノ結果トシテ一九一五年五月支那カ日本ノ脅迫ニ因リ調印シタル諸條約及諸協定ノ効力如何ノ問題ナリト冒頭シ一九〇五年日露戰爭ノ結果日本ハ一八九八年三月二十七日以降二十五年間旅順大連租借權ヲ露國ヨリ繼承シ更ニ一千九百十五年二十一個条要求ニ依リ右租借期間ヲ九十九年ニ延長シタリト雖モ支那ハ今ヤ確定的ニ該延長ヲ承認セサルコトナリタルニ付日本ハ本年三月原定租借期間ノ終了ト共ニ右兩港ニ殘留スル何等ノ口実無キモノナリ右ニ關シ末広博士ハ外交時報一月号ニ於テ旅順大連還付問題ニ關連シ一九一五年條約ノ効力問題ヲ論シ居ル処蓋シ遼東半島還付ニ關スル支那側提

案ヲ駁撃セントセハ勢ヒ右條約ノ有効ヲ主張スルヲ最上ノ策トナスハ勿論ナルカ末広博士ハ支那側ノ屢々提出シタル該條約廢棄論ニ對シ斯クノ如ク論シタリトテ同博士ノ日支條約無効論者ノ拳クル理由ノ第一點ハ該條約ハ日本ノ脅迫ノ下ニ支那政府カ余儀無ク同意シタリト主張スルニ在ル処右ニ對シ日本政府ハ交渉中何等ノ脅迫手段ヲ用ヒサルノミナラス殊ニ滿蒙ニ関スル諸條項ノ如キハ袁大總統ニ於テ一議ニ及ハスシテ之ヲ承認シタル旨弁明シ居リ且仮令脅迫アリタルヲ認ムルモ該脅迫ハ日支條約ノ効力ニ影響スルモノニ非ス蓋シ脅迫ハ國際法上一國カ他國ニ對シテ其主張ヲ貫徹スル為ニ執リ得ヘキ合法手段ノ一ニシテ脅迫カ国家自体ニ加ヘラレタル場合依テ生シタル條約ニ何等影響ヲ及ホスモノニ非ス日支條約ハ最後通牒ニ依テ日本カ支那ニ對シ加ヘタル庄迫ノ結果締結セラレタルニ過キスシテ支那全權ノ一身上ニ何等脅迫ヲ加ヘタルモノニ非サルニ付該條約ハ脅迫ニ依リ締結セラレタルカ故ニ当初ヨリ無効ナリトスヘキ理由無キニ至リ將又仮ニ國家ニ對スル脅迫モ亦條約ノ効力ニ影響ヲ及ホスモノトセハ交戰國間ニ締結セラルル講和條約ノ如キ一切無効トセサルヘカラス「一九一五年ノ日支條

約」ノ著者「ジー・ジェー・ウツド」ノ如キ日支條約ノ廢棄ヲ力説スルモ脅迫ノ下ニ締結セラレタル條約モ亦國際法上無効ニ非サルヲ認メ居レリ云々ト論シタル一節ヲ引キ本點ノ関スル限リ吾人ハ全然博士ト同意見ナリ從來支那側ノ主張シ来リタル一九一五年ノ條約カ恐嚇裏ニ商議セラレ同年五月七日ノ日本ノ最後通牒ノ庄迫ノ下ニ締結セラレタルカ故ニ無効ナリトノ議論ハ學理上其根拠薄弱ナリト認ムトテ支那側主張ノ弱點ヲ是認シタル後然リト雖右支那側主張ハ道德上有リナリ且吾人ハ現行國際法ノ嚴密ナル解釈ニ屈スト雖尚博士ノ指摘スル戰爭ノ結果脅迫ノ下ニ締結セラルル條約ト所謂一九一五年ノ日支條約トノ間ニ實質の相違點アリト主張スルノ余地アリト前提シ進ンテ右相違點ヲ証明スル為先ツ本件條約ノ締結セラルルニ至リタル當時ノ實情ニ言及スルノ要アリトシ二十一個條要求商議ノ當時南滿州ニ中部支那ニ天津福建ニ將又山東ニ於ケル多數ノ日本兵ハ何時ニテモ出動シ得ル地位ニ在リテ要害ノ地点ニ占拠シ交通ノ要路ヲ遮斷シ以テ全支那ヲ席捲スルニ余リアリタリ而シテ交渉ノ成立唯強制ノ一點ニ懸ルヤ日本ハ數箇ノ師團ヲ濟南漢口南滿州ノ要扼ニ増派シ一方日本艦隊モ亦該示威運

動ニ加ハル為メ支那ニ發動ヲ命セラレタリト説キ日本カ愈々五月七日提出シタル最後通牒中ノ「指定時間内ニ満足ナル回答ヲ得ルニ非サレハ帝國政府ハ必要ト認ムル手段ヲ採ルヘキヲ声明ス」ト述ヘタル一節ヲ引キ而カモ當時泰西各國カ独逸ト苦戰シ居タル際日本帝國主義者カ其大陸膨張計畫ヲ實現スヘキ絶好機會トモ云フヘキ時ニ當リ日本ニ於テ強硬ナル態度ヲ持續シ支那ニ於テ屈セスハ遂ニ戰爭ヲ惹起セルヤ必セリ將又一度開戰ニ至ランカ支那ハ独逸ニ与スルノ外ナク之ニ因リテ生スル連合國側ニ及ホスヘキ慘果如何ハ政治的の予言者ヲ待タスシテ明白ナルヘシト述ヘ因之觀是何人モ容易ニ支那代表者カ「ヴェルサイユ」平和會議ニ於テ所謂一九一五年ノ日支條約カ脅迫ノ下ニ締結セラレタリト訴ヘタルノ無理ナラサルヲ覺エルヘク將又前述ノ如ク戰爭ノ結果締結セラルル講和條約ト本件日支條約トノ實質的相違亦直ニ明瞭ナルヘシ蓋シ一九一五年ノ日支條約ハ日支間戰爭ノ所産ニ非スシテ実ニ兩國ハ當時友邦關係ニ在リタレハナリ即チ一強國カ戰爭ヲ以テ脅威シ且其帝國主義的の企圖以外何等ノ理由無クシテ友邦タル他ノ弱國ニ對シ苛酷ナル條件ヲ逼ルハ絶對ニ不當ニシテ道德上弁護ノ余地無キモ

ノト言フヘシト説キ更ニ之ヲ詳説シテ曰ク日本ハ何スレソ其友邦ヲ酷遇スルコト其敵國以上ナリヤ日本カ独逸ニ對シ要求シタル條項ハ支那ニ逼リタル要求ニ比シ寧ロ寛ナリ否二十一個條要求ノ苛酷ニシテ支那ノ主權ヲ毀損スルモノナルハ實ニ壞國カ塞耳維ニ提出シタル十一個條要求ニモ優レルハ一般ノ認ムル所ニシテ而シテ塞耳維ノ拒絕ハ欧州大戰ノ勃発ヲ見タリ支那カ脅迫ノ下ニ屈伏シタルハ單ニ日支間ノ戰爭ヲ避ケンシタルカ為ナルノミナラス亦實ニ連合國カ該戰爭ニ因リ蒙ルコトアルヘキ慘害ヲ防止センカ為ナリキ一九一五年ノ條約カ前述ノ如キ事情ノ下ニ締結セラレタルニ拘ハラス尚且存続ヲ許サルルニ於テハ強國ハ弱國ニ對シ其好ム所ノ條項ヲ自由ニ課シ得ルノ弊習已ムコト無カルヘシト暗ニ日本ノ支那ニ對シテ為シタル苛酷ナル要求及脅迫ノ或ハ欧州大戰ノ如キ慘害ヲ齎シ日本ヲ第二ノ独逸タラシムルコト必スシモ想像ニ難カラサルヘシトノ意味ヲ仄メカシタル後吾人ト雖本件日支條約カ戰爭ノ結果締結セラレタルモノナルニ於テハ其有効ナルニ對シ固ヨリ異議無キ所ナリ而モ尚戰爭ニ依リ完全有効ニ成立シタル條約モ亦其カ脅迫ノ下ニ且負担ニ堪ヘ得サル條件ヲ課シタルノ理由ニ因

リ廢棄セラレタル実例スラアリトテ「プレス・リトフスク」及「ブカレスト」兩條約ヲ引キ此種條約カ脅迫ニ因リ成立シタルノ故ヲ以テ廢棄シ得ヘクンハ何カ故ニ本件日支條約ノミ同様ノ理由ニ因リ廢棄シ得サルヘキカ脅迫カ十分一九一五年條約ヲ無効ナラシムヘキ根拠ヲ構成スル理由玆ニ存シ必スシモ他ニ求ムルヲ要セサルナリ

若シ夫レ一國ニ對シ用ヒラレタル脅迫ニ依リ締結セラレタル凡テノ條約カ無効ナリトセハ戰勝國ト戰敗國トノ間ニ締結セラレタル講和ハ悉ク無効ナルニ至ルヘキハ末広博士所言ノ通りナルモ同博士ハ所謂講和條約ノ通例實戰後締結セラレヘキ事實ヲ看過シタルカ如ク蓋シ實戰ハ單ナル脅迫ト異ナリ從テ單ナル脅迫ノ効果ハ實戰ニ比シテ薄弱ナリト言ハサルヘカラス而シテ支那カ日支條約カ戰爭ノ結果締結セラレタルニ於テハ之ニ對シ何等異議無カルヘキハ前述ノ通りナリ從テ支那ハ決シテ外國ト締結シタル講和條約ノ何レヲモ廢棄セント求ムルモノニ非ス例ヘハ支那ハ阿片戰爭ノ結果ニシテ且香港ノ割譲ヲ規定シタル一八四二年ノ英清條約ノ廢棄ヲ求ムルコトナカルヘク將タ又下ノ閑條約ニ閑シテモ亦同様ナルヘシ一九一五年ノ日支條約ハ何等戰爭ノ結

果ニ非ス一強國カ其欲スル所ヲ一弱國ニ強制シタルモノニシテ純然タル追削的行為ト言フヘク否該追削ト被害者トカ互ニ友情ヲ表明シ居タルニ鑑ミ一層非議スヘキモノナルヘシ若シ此種條約ニシテ廢棄セラレス此種非道德的慣習ニシテ國際間ニ承認セラレンカ平和ハ永久國際間ニ来ラサルヘシト極言シ最後ニ故ヲ以テ吾人ハ一九一五年ノ條約ノ無効ナルヲ最強硬ニ主張スルモノナリ脅迫ノ一事無効論根拠トシテ十分ナリ支那國會カ滿場一致ヲ以テ本件條約ノ無効ヲ決議シタルハ吾人ノ意ヲ強クスルニ足ル支那外交ノ衝ニ當ル者ハ其ノ何人タルヲ問ハス須ラク一九一五年ノ條約ヲ基礎トシテ日本ト商議スヘカラストノ根本原則ヲ樹立セサルヘカラス該條約ハ實ニ無効ノモノナリト論結致居候(別紙甲号参照)

尚右社説ニ関連シ同紙ハ別項ニ於テ「日本ト南滿州」ト題スル一論文ヲ掲載シタルカ是亦主トシテ前記末広博士ノ主張ヲ對象トシ

(一) 末広博士カ一九一五年五月ノ條約ハ支那ニ強制セラレタルモノナルヲ容認シタルハ多數論客ニ比シ遙ニ公正ナルモ尚強制ハ國際條約ヲ無効ナラシムルモノニ非ストセル

ハ幾多ノ非難ニ値スヘシ即チ先ツ戰勝者ハ條件ヲ強制賦課スルニ因リテノミ講和條約ヲ締結シ得ヘシト為シタル点ニ於テ博士ノ議論ハ誤レリ例ヘハ「ボーツマス」條約ハ日露合意ノ結果ナリ反之對獨條約ハ一方の強制ニ依リ成立シ其結果徹頭徹尾不穩ノ平和ヲ齎セリ從テ強制條約無効論ニ閑シ博士トシテハ一方の強制ニ依リ成立セル條約ハ不正ニシテ將來ノ紛議ヲ醸スモノナルノ事實ヲ考慮スヘカリシモノ吾ハ末広博士ノ如キ地位ノ人ニシテ最非道德的且有害ナル條約ヲ弁護シ且之ヲ日支關係ノ基準トシテ遵守スヘシト主張スルニ止ルカ如キハ吾人ノ執ラサル処ナリト述ヘ更ニ

(二) 博士カ日支條約カ國會ノ同意無キヲ以テ無効ナリトスル支那側主張ヲ論駁スル為新約法第二十五条「大總統ハ條約ヲ締結ス但シ領土ヲ變更シ又ハ人民ノ負擔ヲ増加スル條約ハ立法院ノ同意ヲ得ルヲ要ス」ヲ引キ旅順大連租借期間延長ニ關スル日支條約ハ領土問題ニ關係アルモ領土ヲ變更スルモノニアラス亦人民ノ負擔ヲ増加スルモノニ非サルカ故ニ立法院ノ同意ヲ必要トセサルヘク又必要ナリトスルモ該條約締結當時立法院ハ成立シ居ラサリキ云々ト論シタルヲ捉ヘ間モ無ク終了スヘキ租借期間ヲ現世紀終迄延長ス

ルコトハ到底何等領土ニ變更ヲ及ホササルモノト為スヲ得サルヘシ尚支那ハ本件租借地回收ニ當リ之カ改善ノ為日本ノ投シタル費用ヲ補償セサルヘカラス之レ人民ノ負擔ヲ増加スルモノナリ又金建制ノ實施ハ租借地及其奧地一帶ヲ財政上東京ニ從屬セシムルモノナリ斯クノ如ク約一世紀ニ亘ル日本化ニ伴フ事態ニ依リ支那ハ該租借地ノ主權ヲ回收スルコト不能トナルニ至ルノミナラス進ンテ爾余ノ地方ニ對スル全主權ヲ喪失スルニ至ルヘキハ避ケ難キ勢ナルヘシト訴ヘ進ンテ

(三) 末広博士ノ日英同盟協約等ハ日本カ支那ト締結セル特殊條約ニ依リ獲得シ現ニ有スル利權例ヘハ旅順大連ノ租借權ノ如キハ之ヲ尊重スルヲ前提トシテ支那ノ獨立及領土の行政の保全ノ尊重ヲ約シタルモノナルカ故ニ日支條約ハ列國カ曾テ日本ト約セル條約及協約ニ依テ保持セラルル支那ノ領土の保全及政治的獨立ヲ侵害スルモノナリトノ議論ハ曲解ニ過キスト述ヘタルニ對シ吾人ハ屢々日英同盟力二十年間極東ノ平和ヲ維持シタルヲ耳ニシタルカ右ハ單ニ條約ノ目的ヲ聲明シタルニ過キスシテ事實ハ該同盟存続中極東ニ於ケル戰爭ハ却テ増加シ否寧ロ同盟無カリセハ戰爭却

テ少カリシナルヘシト思惟セラルナリ單ナル声明ヲ事実ト称シ現実ニ發生スル事態ヲ無視スルノ習性ハ真相ニ対スル最驚クヘキ無関心ヲ伴ヒ「極東ノ平和」ナル常套語ハ畢竟唾物ニシテ常ニ事実ヲ曲解セシメ虚偽以外何等ノ意義ナシトテ日英同盟ニ対スル支那人ノ不平ニ言及シタル後

(四) 此種議論ヲ以テ本件條約ノ有効ナルヲ弁護スルヲ要スルハ畢竟右條約ニ國際正義ノ見地ヨリシテ許ス可カラサル欠陥アル為ナリ特ニ著シキ事実ハ全交渉ヲ通シテ徹頭徹尾支那ノミ損失者タルヲ要求セラレ絶對ニ得ル所無カリシ点ナリトス故大隈侯及加藤子等カ日支條約中外觀上ナリトモ相互利益ヲ感セシムルニ足ル或種ノ條款ヲ挿入スルノ常識無ク條約上將又交渉中寸毫モ讓歩ノ跡ヲ痕サス何等露骨ナル侵略政策ヲ矯メント試ミサルハ兩政治家ノ侵略政策ノ非道ヲ語ルモノナリ當時日支間ニ何等ノ爭議モ戰爭モ無カリシニ鑑ミ戰敗國カ大体戰勝國ノ強制シタル條約ニ屈セサルヘカラスト為セル末広博士ノ議論ハ日支條約ノ場合支持スルコト困難ナルノミナラス同氏ニトリテモ此種條約ヲ弁護スルハ畢竟氏カ侵略ニヨリ得ヘキ利益ハ國家ノ声誉ニ優ルモノナルヲ信スルヲ示スモノト言フヘシト述ヘ更ニ在支

テ挙ケタル所謂國會ノ同意ヲ經サルカ故ニ支那約法上当然無効ナリトノ主張ノ要点ニ触レ居ラサルノ点ニシテ右ハ畢竟本件日支條約締結當時旧約法行ハレス新約法ニ拠ル立法院モ亦成立スルニ至ラスシテ該條約ハ到底國會ノ同意ヲ得ル能ハサリシ事情ニ鑑ミタルモノナルヘシ要之本件日支條約ノ無効論ハ其ノ所說前後矛盾シ根拠頗ル薄弱ナルハ申ス迄モナキ処ナルカ支那人ノ一部ニ右論說所述ノ如キ印象深キハ否ムヘカラサル事實ニ有之候為御參考論說要旨訳述別紙切抜添付此段及報告候也

本信写送付先 天津、奉天、上海

編註 別紙ハ見当ラズ

七 二月十六日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

関東州租借地還付問題ニ関スル北京「リーダー」ノ社説ニ付報告ノ件

機密第一八九号

大正十二年二月十六日

在支那

郵便局撤退問題ニ言及シ日本ハ南滿州ニ於ケル郵便局問題ニ関シ讓歩スルコト賢明ノ策ナリシナルヘシ若シ日本カ自發的ニ南滿州ニ於ケル郵便局ヲ他ノ郵便局ト共ニ支那ニ引渡シタリトセハ支那ノ感謝ト共ニ日本ノ信用ヲ増進スルコト多大ナリシナルヘシ然ルニ事實ハ反之南滿州ニ於ケル郵便局問題ハ再び反感ヲ挑発シ延イテ支那側ヨリ脅迫ニ基キ獲得シタル利権ハ無効ナリトノ主張ヲ招クニ至レリ末広博士ハ南滿州ノ為日本カ多大ノ人命ト財物トヲ犠牲トセル事實ハ滿州ノ利権維持上薄弱ノ議論ト認メタリ何トナレハ此種ノ議論ハ畢竟日露戰爭ニ因ル損失ヲ支那ヲシテ補償セシメントスルモノナレハナリ即チ末広博士カ支那カ「自発的」ニ條約ニ調印セリトノ主張及此ノ血財論ヲ放棄セルハ論争ノ誠実性ニ若干ノ進境ヲ示シタルモノト云フヘシト論結致居候(別紙乙号参照)

惟フニ右ハ單ニ新聞論說ニ過キサルモ其内容ニ於テ顧維鈞等ヲ弁護シ居ル点等ニ顧ミ其外交部系ノ意見ニ基キタルモノナリヤノ疑アリ何レニスルモ支那側ノ本件條約ノ無効ヲ唱道スル根拠及動機ヲ推断シ得ル好材料タル処右ニ関シ注意スヘキハ兩者共ニ支那國會ノ本件條約無効理由ノ一トシ

特命全權公使 小幡 西吉

外務大臣 内田 康哉殿

関東州租借地還付問題等ニ関スル件

本件ニ関スル支那側主張ノ要点動機等ニ就テハ二月十五日付機密第一八五号往信ヲ以テ詳細及御報告置候処右ニ関連シ北京「リーダー」モ亦一月三十一日社説ニ於テ「滿州租借地」ト題シ本件ヲ論シ先ツ本問題ニ関スル日支双方ノ主張ヲ約說シタル後支那國會ノ二十一ヶ條條約無効決議ニ基キ支那政府ノ採ルヘキ態度如何ヲ揣摩シテ支那政府ハ三月二十三日前適當ノ時機ニ於テ関東州租借期限ノ九十九年延期ヲ承認セス但支那ハ日本ニ對シ該租借地域即時撤退ヲ逼ルノ意思アルニ非スシテ唯將來何時ニテモ本件租借地還付問題ニ関シ日本ト商議スヘキ權利ヲ留保スヘキ旨公式ニ通告スルノ方途ヲ択フヘキヲ信スト述ヘ支那カ此ノ態度ヲ執ルヘキ理由トシテ支那カ今日該租借地即時還付ヲ日本ニ逼ルトキハ日本ハ直ニ之ヲ拒絕スヘク然ルトキハ問題ハ茲ニ決着シテ又再考ノ余地ヲ残サス其ノ結果日本ハ九十九年中残りノ期間関東州ニ蟠居スルコトナルヘシ故ニ租借地ノ即時還付ヲ迫ルカ如キ措置ハ此ノ際充分ニ之カ成功ノ見極

メ付カサル限り支那ニトリ極メテ拙劣ナル策ナリト言ハサルヘカラス蓋シ形勢ハ後ニ至ルニ從ヒ支那ニ有利ナルコト亦疑無ケレハナリト付言シ進ンテ滿州問題ト山東問題トノ間ニ多大ノ相違アルヲ指摘シテ

(一)滿州ニ於ケル日本ノ投費ハ多大ニシテ且長期間ニ亘リ寧ロ永久の性質ヲ帶ヒタリ反之山東ニ於ケル日本ノ投費ハ比較的少額ニシテ単ニ數年ニ亘レルノミナラス撤退ヲ見越シテ行ハレタルニ鑑ミ今日滿州ニ於ケル日本ノ合法的利益ヲ買取ラントセハ山東買戻シニ要シタルヨリモ遙ニ多大ノ金額ヲ要スヘキ処支那カ山東還付ニ伴ヒ補償スヘキ金額スラ如何ニシテ工面スヘキカ頗ル疑問ナルニ遙ニ多額ナル滿州買取費ヲ如何ニシテ捻出スヘキカ

(二)山東ニ関シテハ日本ハ独逸ヲ驅逐シタル以來支那ニ還付スヘキヲ保障シタリ然ルニ滿州ニ関シテハ日本ハ終始一貫九十九年延長ノ有効ナルヲ主張シ來レリ此点ハ本件ニ関スル學理上ノ問題ニ關係アルノミナラス支那カ滿州ヨリ日本ノ迅速撤退ヲ要求スルニ関シ世界ノ輿論ニ訴フル場合ニ頗ル重大ナル關係アルモノトス

(三)山東問題ニ関シテハ「ヴェルサイユ」會議以來世界ノ輿

日亜米利加合衆國ノ外国支配ヲ語ルノ非ナルト同シカルヘシ

北京政府カ日本政府ヲ説キテ一九二三年三月二十三日ニ滿州ヲ撤退セシムルノ見込極メテ少カルヘシ然レトモ今後數年内ニ於テ支那政府カ本件ニ関シ日本政府ト満足ナル協定ヲ遂ケ得ルノ絶好機會アルヘシ從テ今日ニ於テハ本問題解決ヲ強行スルコト無ク單ニ將來日本ト之ヲ商議スヘキ權利ヲ留保スヘキ旨抗議シ置クニ止ムルヲ上策トスヘシ蓋シ此ノ如キ措置ニ依リ支那ハ現在有スル凡テヲ保持スルノミナラス終局ノ解決ヲ支那カ其ノ要求ヲ貫徹シ得ル時機ニ延ハスヲ得ヘシ若シ反之今日關東州還付ノ請求ヲ強行スルニ於テハ仮令其ノ學理的主張正シトスルモ日本ノ拒絶ニ遭ヒテ其ノ結果如何トモシ難ク結局支那ハ九十九年ノ期間終了前ニ再ヒ其ノ主張ヲ提起スルノ機會ヲ喪失スルコトトナルヘシト論結致候

右ニ関連シ本論說執筆者「グローバー・クラーク」(「ドクトル、ギュリック」ノ甥)ハ從來山東問題等ニ関シ常ニ比較的公正ナル議論ヲ述ヘ來リタルハ其ノ都度ノ報告ニ依リ御承知ノ通りニシテ且同人カ米國人ナルニモ鑑ミ右ハ支

論ハ明ニ支那ニ与シタルニ滿州問題ニ関シテハ從來未ダ曾テ右ノ如ク支那ニ有利ナル輿論無カリキ寧ロ支那カ近來山東ヲ回收シ郵便局ヲ回收シ關稅增收ヲ得威海衛広州灣ヲモ將ニ回收スヘキ筈ナルカ列國ハ支那カ是等回收シタルモノヲ如何ニ處理スヘキカニ甚深ノ注意ヲ払ヒツツアリ殊ニ山東ニ関シテ然リトス要スルニ支那ハ先ツ國家ノ組織及秩序ヲ整備且維持スルノ能力アルヲ証明スルニ非サレハ今後ノ外國利權回收運動ニ関シ外國政府及輿論ノ興味ヲ惹クコト能ハサルヲ切言セントス

ト述ヘタル後從テ支那カ其回收シタルモノノ處理ニ成功セシカ外國利權回收ニ関シ何等困難ナル問題起ラサルヘシ明治維新以來ノ日本ノ歴史ハ其ノ儘支那ニ適用シ能ハサルヘキモ(蓋シ日本ニ於ケル當時ノ外國利權ハ支那ニ於ケルモノノ如ク大ナラス)其條件ハ根本ニ於テ全然同一ナルヘシト説キ終リニ

要スルニ支那ノ根本問題ハ國內問題ニ在リテ對外問題ニ在ラス支那ハ先ツ鞏固ナル中央政府ヲ樹立セサルヘカラス要スルニ自ラ統治シ得ルヲ証明セサルヘカラス是等ノ事態ニシテ遂ケラレンカ支那ノ外國支配ヲ説クノ当ラサル蓋シ今

那ニ於ケル比較的公平ナル米國人ノ本件ニ関スル代表的意見トモ觀ラレ將又同人カ從來支那側殊ニ外交部側ト相當連絡ヲ保チ來リタル經歷等ニモ照ラシ本件ニ関スル支那側一部ノ意見ヲモ代表シ尠クトモ從來支那ニ對シ最同情多キ米國人ト雖旅順大連等還付問題ニ関シテハ時期尚早ナルヲ認メ居ル証ナリトモ思考セラレ候尤論者ハ支那ノ將來ニ對シ頗ル樂觀シ居ル様ノ節アルモ其ハ單ニ支那人ノ自負心ヲ傷ケサランカ為ナルヘキヤニ認メラレ候別紙切抜添付此段報告申進候也

本信写送付先 天津、奉天、上海
編註 別紙切抜省略

八 二月二十三日(發) 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国国会ニ於ケル二十一箇條取消決議案可決
ニ至ル經過及ビ政府ノ同案ニ對スル態度ニ関
スル中国要人ノ見解報告ノ件

第三八号

在支公使發本官宛電報

第一五二号

外務大臣ハ転電アリタシ

第一五三号

孫(不明)ハ東方通信横山ニ対シ左ノ通り談話シタル趣ナリ

二十一ヶ条取消決議案ハ元來国会議員ノ自発的ノモノニ非ズ実ハ顧維鈞ガ巴里會議及華盛頓會議ニ於ケル自己ノ功績ヲ更ニ吹聴センタメ一部ノ議員ヲ使喚シテ斯ル決議ヲ為サシメタルモノナリ而シテ現行法(旧約法)ニ依レハ議會ハ政府ニ対シ建議スル權アレトモ決議ノ權無ク若シ議會ガ二十一ヶ条取消ヲ政府ニ建議スルモノトスレハ衆議院ハ衆議院、參議院ハ參議院トシテ夫々單獨ニ為スヘキモノナルニ此ノ案ハ參、衆兩院ニテ可決シタルモノナレバ建議案ノ手續ニモ依ラズ極メテ變態的ノモノニテ右決議案ハ法律上ノ根拠ナキモノナリ又政府ハ既ニ參議院ヨリ右ノ決議案ヲ接受セルモ政府部内ニ於テハ今猶之ニ就キ如何ナル処置ヲ為スカヲ研究シ居ラズ又政府側ニ於テ如何ナル意見ヲ有シ居ルカニ就キ未タ耳ニシタルコトスラ無シ若シ議會ヨリ政府ニ対シ此案ヲ如何ニ処置スルカトノ質問アラバ政府ハ外交

繼續ノ有効ナルヲ默認セルニ等シカルヘシ故ニ仮令目前処弁シ難クトモ此際交渉ヲ開始スルノ要アルヘシ云々(關東軍ヘハ濟)

一〇 二月二十七日(発)

在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

土肥原少佐ガ二十一箇条取消問題ニ関スル米

國及ビ中国總理、外交総長ノ態度ニ付國務院

方面等ヨリ得タル情報報告ノ件

第四〇号

在支公使發本官宛電報

第四〇号

外務大臣ヘ転電アリタシ

第一六〇号

土肥原ガ國務院方面ヨリ得タル情報ニ依レバ二十一ヶ条問題ニ関スル顧維鈞一派ノ親米派ノ態度ハ頗ル強硬ニシテ中ニハ日支直接交渉ヲ不利トシ米國ニ依頼シテ東方會議ヲ開キ國際の公判ニ訴フルコトヲ主張スルモノアリ彼等ハ米人顧問及米国外交官トノ接洽ニ依リ米國ハ表面冷静ヲ装フモ成行ノ如何ニ依リテハ特ニ援助ヲ与フルハ勿論調停ノ勞ヲ

總長モ猶未定ナレバ何トモ回答シ得ス位ノ回答ヲ為スニ過ギザルベシ云々

天津、上海、広東、漢口ヘ暗号ノ儘郵送セリ

九 二月二十四日(発)

在北京土肥原少佐ヨリ
武藤參謀次長宛(電報)

中国外交部ガ駐歐米各國公使ニ対シ二十一箇条取消案ニ対スル任國ノ態度報告方訓令セル件

坂電第八号

(二月二十六日外務省写接受)

北京外交部ハ駐英國、米國、仏國、伊國、白國公使ニ対シ左記要旨ノ密電ヲ發セリト

二十一ヶ条問題ハ国会既ニ其取消案ヲ通過セリ然ルニ本件ハ國際上多大ナル關係ヲ有スルヲ以テ甚研究ノ余地アリ依テ広ク意見ヲ集メ其画策ニ資セントス貴公使ハ國論ノ狀況ヲ熟知セラルルニ依リ本件ニ対スル駐在國ノ輿論及政府最近ノ態度ヲ探知シ意見ヲ加ヘ速カニ報告セラレタシ云々

又袁金鎧ハ十八日黃外交総長ニ德憑シテ曰ク若シ旅大租借期到來スルモ日本ニ向ヒ之レカ還付ノ要求ヲ發セスンハ其

モ吝マザルベキヲ信ズルガ為ナリ又在支米人中日本ガ台灣人及朝鮮人問題其他社会不安等ニ依ル国内輿論ノ結束十分ナラズ此際支那ガ斷乎タル態度ヲ取ラバ米國ノ同情之ニ集マリ日本ハ鞏固ナル態度ヲ持續スル能ハザルニ至ルベシトテ親米支那人ヲ煽動スルモノアル由ナリ

尤モ總理及外交総長ハ日本近時ノ輿論ヨリ推斷シテ若シ條約改訂等ノ穩便ナル形式ヲ取ラバ日本ハ或程度迄支那申出ニ応ズル見込アルモノトナシ此ノ上余リニ極端ナル態度ヲ採リ妄リニ事態ヲ混乱セシムルハ内外多事ノ今日得策ナラザルヲ以テ外交委員會ヲ通ジ国会側ノ諒解ヲ得ル様努力スル方針ナリト云フ

右ニ關連シ土肥原ガ更ニ他ノ方面ヨリ得タル情報ニ依レハ黃外交総長ハ二十二日国会議員ヲ一料理店ニ招待シ意志ノ疏通ヲ計リタルガ右宴會終了後各派ノ領袖相談ノ上同總長ヲ訪ヒ若シ總長ニシテ二十一ヶ条問題ニ関スル国会議決ノ方針ニ依リ日本トノ交渉ヲ承諾スルニ於テハ總長ノ同意案通過ニ努ムヘシト内話シ總長之ヲ承諾セル趣ナリ

天津、上海ヘ暗号ノ儘郵送セリ

一一 二月二十八日（発）在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

米國政府ノ二十一箇条取消問題ニ関スル態度
ヲ駐米中國代理公使ヨリ本國政府ヘ報告ノ件

第一六九号

坂西ノ得タル情報ニ依レバ駐米支那代理公使ハ二十七日付
ヲ以テ外交部ニ宛テ米國政府ハ二十一ヶ条問題ニ多大ノ注
意ヲ払ヒツアル処其意向ハ華府會議ノ精神ニ照ラシ支那
政府ハ当然右条約ノ取消ヲ要求シ得ベキモ現政府及其外交
当局ガ果シテ此重任ニ堪ヘ得ルヤ疑問ナリト云フニアリ云
云ト電報シ越セル趣ナリ尚此種ノ情報ハ坂西ヨリ參謀本部
次長及陸軍次官等ニ發電セラレ居ルニ付其方面ヨリ其情報
入手セラレ居ラバ当方ヨリノ電報見合ハスベキニ付回電ア
リタシ

一二 三月一日（発）在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

黃外交總長二十一箇条條約撤廃ニ関シ日本ニ
交付スル照會文ヲ作成中トノ情報報告ノ件

レバ該租借繼續ノ有効ヲ默認スルニ等シキニ付仮令默認シ
難シトスルモ此際交渉ヲ開始スルノ要アルベシ云々ト申添
ヘタル趣ナリ

一三 三月一日（発）在北京坂西中将ヨリ
武藤參謀次長宛（電報）

旅大問題ニ関シ仏人顧問「ドルマン」ノ大總
統ニ提出セル意見書ノ要旨報告ノ件

坂電第二一号 （三月二日外務省ヲ接受）

仏人顧問「ドルマン」ノ旅大問題ニツキ大總統ニ提出セル
意見書ノ要旨左ノ如シ
旅大租借期滿了スルモ日本絶対ニ之レカ還付ヲ肯セサレハ
二十一ヶ条ニ依ル能ハサルモ若干年ノ統租ヲ許シ其租借金
トシテ毎年支那政府ニ日本金三千万円ヲ納メシムルコトト
シ之ヲ支那政府ノ対日債務ヨリ差引クコトトスレハ可ナラ
ン云々本意見ハ新生面ヲ開キ得ルト見做サレアリト

第四三号

在支公使發本官宛電報

第五号

外務大臣ヘ転電アリタシ

第一七一号

坂西ノ得タル情報ニ依レバ黃外交總長ハ所謂二十一ヶ条条
約問題ニ関シ政務司長施紹常條約司長錢泰參事唐在章ノ三
名ヲシテ大要該協約ハ

一、日支親善ノ障礙タルコト

二、華府會議ノ原則ト精神トニ全然違背スルコト

三、支那ノ生存ト發展トヲ阻害スルコト

四、支那全国人民之ニ反对シ參衆兩院ハ既ニ之ガ否認ヲ決議
シ將又旅大租借期ハ三月滿期ナルニ付本協約存在スル時
ハ原約ト牴觸スル虞アルコト

等ノ方針ニ基キ本件協約撤廃ニ関スル照會理由書ヲ起草セ
シメ既ニ二月二十七日閣議ヲ通過シ更ニ之ヲ基礎トシテ一
層余地アル如ク照會ヲ作成シ近ク日本ニ交付スルニ至ルベ
シト尚袁金鎧ハ二月十八日黃總長ニ対シ書面ヲ以テ旅大租
借期限到來スルモ日本ニ之ガ還付ノ要求ヲ發スルニアラザ

一四 三月二日（発）在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中國側ヨリ二十一箇条問題ニ関シ申入レアリ
タル場合ノ措置振りニ付請訓ノ件

第一七九号

二十一ヶ条問題ニ関シテハ累次ノ情報ニ依リ推断セラルヘ
キ通り支那側ヨリ何等カノ形式ニテ我方ニ申入レ来ルモノ
ト想像セラルル処其場合ハ内容又ハ形式ノ如何ニ論ナク一
旦之ヲ接受シ御訓令ヲ請フヘキモノナリヤ取扱振返シ御
回電ヲ請フ

一五 三月二日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

所謂二十一箇条條約問題ニ関スル二月二十七
日中國國務會議ニ関スル件

付屬書 坂西中将ヨリ送付越シノ右國務會議ノ模様ニ関ス
ル情報ヲ

機密第二〇三号

大正十二年三月二日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉

外務大臣 内田 康哉殿

本件ニ関シテハ往電第一七一号ヲ以テ不取敢及御報告置候
処右會議ノ模様ニ関シ坂西中将ヨリ送付越シ候別紙情報写
御参考迄ニ玆ニ供貴覽候也

(付屬書)

坂西中将ヨリ送付越シノ二十一ヶ条問題ニ関スル二月二十七日ノ
中国國務會議ノ要旨

二十一ヶ条問題ニ対スル討論概要

會議開カルルヤ先ツ曹錕ヨリ本件ハ須ク鄭重ニ研究ヲ要ス
ル旨電報シ来レル由ヲ宣シタル後閣員ノ討論ニ入ル
外交次長沈瑞麟曰ク、二十一ヶ条撤廢ノ理由ハ修正ヲ以テ
結局ノ到着点トシ華府會議ノ原則ニ照シ牴触スルモノハ一
律ニ改修スルコトトスヘシ

張總理賛成セスシテ曰ク、国会原案ノ意思ヲ以テ日本公使
ニ照会スルヲ妥当トスヘシ云々

教育総長彭允彝曰ク、苟モ照会ヲナシタル後日本之ヲ不問
ニ付スルカ或ハ拒絕セハ忽チ國人ノ対外心理ヲ昂起シ以テ
国内統一ノ補助タラシメ得ヘシ云々

一六 三月二日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

中国政府顧問仏人「パドウー」ガ黎總統ニ呈
出セル二十一箇条問題ニ関スル意見書送付ノ
件

付屬書 右意見書

機密第二〇四号

大正十二年三月二日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉

外務大臣 内田 康哉殿

所謂二十一ヶ条問題ニ対スル支那政府ノ対日交渉方針等ニ
関スル情報ハ屢次及報告置候処右ニ関連シ坂西中将ヨリ支
那政府顧問「パドウー」ノ本問題ニ関スル意見書ナルモノ
送付越候ニ付為御参考右玆ニ及送付候也

(付屬書)

審計院顧問仏人「パドウー」二十一ヶ条ニ関スル

意見書

左ノ意見書ハ「パドウー」ガ黎總統ノ諮詢ニ応シ呈出

一 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題 一六

内務総長高凌霨曰ク、本件ハ尚暫ク討論スルヲ要ス唯此公
文ハ旅大租借期滿了以前ニ日使ニ送付セラルルヲ要ス

外交総長黃郛曰ク、一面ニ廢棄案ヲ提出シ一面列國ニ通告
スルカ或ハ單ニ日本ノミニ提出スルニ留ムヘキヤ

交通総長吳毓麟曰ク、須ク同時ニ通告スヘシ

農商総長李根源曰ク、一面照会シ一面公布ノ形式ヲ以テ外
交團ニ分送セハ手続上妥当ナラン

張總理曰ク、手続ハ此ノ如クナルヘキモ通告セスシテ單ニ
公布式ノ通知ヲナセハ列國ノ注意ヲ牽キ難カルヘキ恐アリ
云々

以上商議ノ結果外交部ヨリ提議セル四項ノ方針(坂電第十
二号^(編註)参照)ト理由ニヨリ外交部ニテ理由書ヲ起草シ再度閣
議ニ提出スルコトトナリ黃外交総長之ヲ外交部ニ持チ歸ル
コトトセリト

編註 坂電第十二号ハ外務省記録ニ見当ラザルモ右ハ前出赤塚總
領事兼外務大臣宛第四三号中ノ坂西情報ニ該当スルモノナ
ランカ

セルモノニシテ最近支那政府ノ所謂対日照会方針ト酷
似スル所多ク因果ノ關係アルニ非スヤトモ疑ハルルヲ
以テ時節柄重要視スルノ価値アリト信ス

支那ノ所謂二十一ヶ条ノ協約取消問題ニ関シテ之ヲ國際平
等ノ原則ニ按スレハ此等ノ條約ハ万其存在ヲ許シ難キ者也
惟該條約ハ國際連盟及華府會議ニテ未タ徹底的ニ解決セラ
レス而シテ相手方該協定賦与ノ權利ニ関シテハ分別布置投
資經營等其數甚タ多ク支那ハ事前ニ未タ一々阻止スル能ハ
ス況ンヤ支那政局屢々變更セラレ外交上未タ能ク徹底的準
備ヲナシ能ハサルヲヤ

苟モ參衆兩院議決ノ否認案ヲ以テ日本ニ抵抗セントセハ須
ク第二步第三步ノ弁法ヲ予メ備ヘサルヘカラス若シ公文ヲ
送達シ事畢レリトナセハ此等不用意ノ出発ハ現時ハ其時機
ニ非ス但シ支那政府ハ民意ヲ顧念スル為万中止シ難シトセ
ハ其理由ハ宜シク單簡ナル措詞ニ從フヘク又広漠トシ専ラ
本案交渉ノ立脚点ヲ取得スルヲ主トスレハ可也鄙見ヲ以テ
セハ二種ノ弁法アリ

(-)現在ハ其時機ニ非ス時局進歩シ國際間空氣良好ノ時ヲ俟
ツテ提出セハ多數ノ助ヲ得ヘシ目前ハ米國ヲ除ク外能ク援

助スルモノナカラン

(三)政府ニシテ必ス国会決定案ヲ履行セント欲セハ亦一種單純ノ理由ヲ用ユ可シ謂ク該協定ト華府會議ノ原則トハ実ニ抵觸シアルコト、支那ト日本トハ同シク華府會議ノ協定ヲ批准セル者ナリ此等精神ニ違背スルモノヲ邦交ト道義トニ計レハ日本ハ当然之ヲ拋棄スヘキナリ斯ク立論スルヲ稍有カトナスヘシ旅大租借問題ノ如キハ宜シク別案トシテ表示シ該約期滿ツルヲ説明シ且列國ニ通知シテ以テ博ク世人ノ注意ヲ牽クヘシ但日本苟モ二十一ヶ条及旅大ヲ完全ニ撤回スルトセハ彼ノ要求スル物質ト費用トハ実ニ支那ノ能ク堪ユル所ニ非サルヘシ即チ之ヲ魯案ヲ以テ論セハ支那接收後其利ヲ見スシテ其得ル所ノ者ハ國庫ノ新負担ト外交ノ責備トノ声ノミナリ

一七 三月三日 (発) 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

二十一箇条問題ニ関シ中国側ヨリ申入アリタル場合ノ措置ニ付回訓ノ件

第一一一号

ルコトニ廟議内定シ居リ要スルニ本問題ニ関シ華府會議ニ於テ我全權ノ執リタル措置以上一步モ出デザル次第ニ付御含置キアリ度シ尚申ス迄モナキコト乍ラ右帝國政府ノ方針ハ何等從來取来リタル對支政策ノ變更ヲ意味スル次第ニ非ズ念ノ為

(林へ) 在欧各大使へ転電方取計ハレタシ

一九 三月六日 (発) 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

中国政府ノ特使二十一箇条條約廢棄ヲ日本政府ニ提議ノ為東京向ケ出発ノ情報報告ノ件

第一九〇号 大至急

坂西ノ得タル情報ニ拠レハ曹錕ハ二日、吳佩孚ハ三日付電報、張作霖ハ二月二十七日付書面ヲ以テ二十一ヶ条廢棄ノ提議ニ賛成シ来リ又在外使臣ノ來電モ悉ク之ニ同意ナルニ付黃總長ハ四日特別會議ヲ開キ照會文案ヲ決定シ總理ノ同意ヲ得テ特使ヲシテ右文書ヲ携帯五日午後三時極秘裡ニ東京ニ出發セシメタリ該特使ハ十日東京着文書ハ十二日前後ニ日本政府ニ交付セラルル予定ナル由ナルカ該案文ハ国会

一 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題 一九 二〇

貴電第一七九号ニ関シ

支那側ヨリ申入アル場合ハ貴官ニ於テ何等コミットスルコトナク兎ニ角一時單ニ之ヲ受領シ内容其他詳細電報アリタク当方ニ於テ之ヲ査見シタル上支那政府ノ申入ヲ突返スコトスルカ又ハ何等カノ回答ヲ為スコトスルカ詮議ノ上何分ノ儀電訓スヘキニ付支那政府ニ對スル措置ハ其上トセラレタシ

一八 三月三日 (発) 内田外務大臣ヨリ
在米國壇原大使、在英國林大使宛 (電報)

所謂二十一箇条問題ニ對スル日本政府ノ態度
ニ付通報ノ件

合第四八号

所謂二十一ヶ条問題最近ノ成行ニ付テハ屢次ノ電報ニヨリ大要御承知ノ通りナルガ之ニ對スル帝國政府ノ態度ハ加藤總理及本大臣ニ於テ議會ニ於ケル答弁ノ際ニモ屢々之ヲ闡明シ置キタル通りニテ即チ支那政府力愈々大正四年日支條約ノ無効ヲ声明シ来ル場合ニ於テハ勿論其改訂ヲ要求シ来ル場合ト雖帝國政府ハ断然之カ交渉ニ応ズルコトヲ拒絶ス

ノ決議ヲ骨トシ日支ノ感情ヲ肉トシタルモノニシテ約六百字ヨリ成リ大要左ノ如シト云フ

最近日支兩國ノ感情漸次融和シツツアルハ慶賀スヘキコトニ属スルモ唯二十一ヶ条條約ハ尙兩國親善ノ障害ナルニ付我國民ハ連年之カ廢棄ヲ熱望シ既ニ巴里及華府會議ニ於テモ我委員ハ之カ廢棄ヲ提議シ貴政府ノ同意ヲ得テ既ニ其ノ一部ハ除去セラルルヲ得タルモ尚残余ノ諸項ハ我國人ノ認メテ外交ニ害アリト為シ之カ廢棄ヲ切望シ既ニ參衆兩院ノ議決ヲ經タリ依テ茲ニ之カ廢棄ヲ貴國政府ニ提議セントス貴政府ニ於テモ善隣ノ誼ニ顧ミ之ヲ諒トシテ容レラルヘキヲ信ス云々

二〇 三月八日 (発) 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

二十一箇条問題ニ關スル三月七日ノ閣議ニ於ケル黃外交總長ノ陳述ニ關スル情報報告ノ件

第二〇五号

坂西ノ内報ニ拠レハ黃外交總長ハ三月七日閣議ニ於テ往電第一九〇号二十一ヶ条問題對日交渉文ヲ披露シ日本ハ之ニ

二三

對シ支那元首ノ批准セル本件協約ノ無効若クハ廢棄ヲ云為スルハ國際好誼上之ヲ許ササルノミナラス日本カ華府會議ニ於テ兩國親善ノ主義ニ基キ既ニ山東懸案ヲ解決シ支那自ラ一部要求ノ拋棄ヲ聲明シタルハ關係各國ノ熟知スル所ニシテ日本ノ國情ヨリスルモ此上讓歩ヲ許ササル旨回答シ來ルヘキヲ予想シ第二段ノ処置トシテ更ニ支那ノ國情ヲ懇ヘ本件協約改訂方ヲ提議スル方針ナル旨ニ関シ説明シ閣員ノ同意ヲ得タル趣ナリ

尚往電第一八一号民論喚起ノ予備會ニ関シ其後張英華、王正廷、顧維鈞、施肇基等モ加ハリ本問題提出後ノ運動ニ就キ企画シ且当初ノ方針ヲ變更シ政府ノ補助金ヲ斥ケ専ラ名士ノ驥金ニ依リ本交渉ヲ政府ノ為ニ利用スル魂胆アリトノコトナリ

二一 三月九日（発）在北京坂西中将ヨリ
武藤參謀次長宛（電報）

中国外交部ハ其ノ二十一箇条條約廢棄ニ関シ
駐米中国公使ニ訓令セリトノ情報報告ノ件

坂電第二七号 （三月十日外務省写接受）

外交部ハ七日夕駐米代理公使宛左記要旨ノ電訓ヲ發シタリト

貴官ハ米国外務大臣ヲ訪ヒ支那政府ハ十日前後ニ於テ日本政府ニ對シ二十一ヶ条ノ廢止ヲ提議セントス元來該交換文ノ改訂ハ華府會議ニ基キ當然ノ權利ニシテ日本ハ某程度迄ハ之ヲ認メアリ然ルニ國會ノ主文ハ之カ無効ヲ主張シアルヲ以テ殊ニ之カ第一歩トシテ廢止ヲ要求スル次第ナルニ依リ同情ヲ乞フ旨ヲ申入レ速ニ其ノ回答ヲ電報セラルヘシ云々ト

又坂電第二五号ノ照會文ハ同時ニ当地我公使館ニモ提出スルコトニ決定セリト

次官 関東スミ

二二 三月十日 在本邦廖中国代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

民国四年締結ノ日中條約及ビ交換文書ノ廢棄
ヲ要請ノ件

（訳文）

拝啓陳者本日本国外交部本年三月四日付左記訓令ヲ奉シ貴

大臣ニ照會スルノ光榮ヲ有シ候日支兩國ハ素ト親睦ノ間柄ニテ方今世界各國共ニ平和ニ向ヒ公道ヲ力持スル際ニ当リ宜シク益親密ヲ謀リ以テ極東ノ平和ヲ保障シ世界ノ平和ヲ促進スヘキモノナリ就テハ民国四年五月二十五日締結セルトコロノ日支條約及交換文書ハ実ニ日支親善ノ最大障礙ニシテ當時該條約調印後支那政府ハ宣言書ヲ發表シ支那國ハ圧迫セラレタル為已ムヲ得ス忍ンテ最後通牒中ノ各條件ヲ受ケタルモ之カ為ニ各國條約上ノ權利ヲ侵犯シタルトキハ支那國ハ責任ヲ負ハサル旨聲明セリ嗣イテ巴里平和會議ニ於テ理由ヲ聲明シ該條約及交換文書ノ廢止ヲ要求シ平和會議々長ヨリ此問題ノ重要ナルコトヲ十分承諾スル旨ノ返書ヲ得タリ華盛頓會議開會ノ節復我國代表ハ一、利益ノ交換ナシニ、支那國ト他國トノ間ニ締結セル條約ヲ侵犯ス三、該條約及交換文書ハ華盛頓會議ニ於テ通過セル各原則ト抵觸ス四、該條約及交換文書ハ已ニ屢日支間ノ誤解ヲ發生シタリトノ理由ニ依拠シ同會議ニ取消要求ヲ提出セリ當時日本代表ハ我國提案ヲ重視シ日本ハ南滿州及東部蒙古ニ於ケル鐵道敷設及課稅ヲ担保トスル借款ノ優先權南滿州ニ於ケル政治財政軍事警察顧問教官傭聘ノ優先權ヲ完全ニ放棄シ

並ニ締結ノ際原有ノ第五項ニ関スル留保ヲ撤回スル旨聲明セラレタリ我國代表ハ日本代表ノ放棄及留保各項ノ撤回ヲ承認シタルモ其他ニツキ未タ満足セス仍全部放棄スヘキコトヲ聲明シ並ニ他日適當ノ機會ニ於テ本案ヲ解決スルノ權利ヲ留保スル旨聲明シ右我國ノ留保ハ同會議ニ列席セル各國代表ノ正式承認ヲ經並ニ議長ヨリ總會ニ於テ正式ニ宣告シ會議議事録ニ記載セリ本條約及交換文書ニ對シテハ本國輿論ハ終始反對シ本國政府ノ巴里、華盛頓ニ於テ本案ヲ提出シ取消ヲ要求セルハ原ト全國民意ヲ以テ根拠ト為セリ本國國會ハ民国十二年一月通常會議ニ於テ民国四年五月二十五日締結ノ日支條約及交換文書ヲ無効ト認ムルコトヲ議決シ本國參議院ヨリ右ニ依リ處理アリタキ旨移牒アリタリ以テ本國民意終始一致セルヲ見ルニ足ル而シテ旅順大連租借期限ハ間モナク滿期ニ至ラムトス本政府ハ日支關係改善ノ時機既ニ成熟セリト認メ特ニ貴國政府ニ向ヒ重テ有ユル民国四年五月二十五日締結ノ日支條約及交換文書中已ニ解決シ及已ニ貴國政府カ放棄並ニ留保撤回ヲ聲明セル各項ヲ除キ已ニ直ニ全部廢止セラルヘキコトヲ聲明ス並ニ旅順大連接收辦法及民国四年日支條約及交換文書廢止後ノ各種ノ

問題ニ関シ商議スルタメ日期ヲ指定セラレンコトヲ希望ス
本國政府ハ深ク信ス貴國政府及國民ハ日支邦交ヲ重視シ必
ス能ク本國國民全体ノ意思ヲ容納シ數年間兩國親睦ノ障礙
ヲ完全ニ除去シ之ヨリ兩國國民真実ノ親善ヲ謀リ東亞ノ和
平益鞏固トナルヲ得ハ是レ惟ニ日支兩國ノ福ノミナラス亦
世界ノ幸ナリ

本國外交部ハ右寫ヲ貴國駐支公使ニ送り接洽スルト同時ニ
茲ニ特ニ貴大臣ニ及照会候条御回答相煩度此段得貴意候尚
本代理公使ハ貴大臣ニ對シ特ニ敬意ヲ表シ候 敬具

中華民國十二年三月十日

中華民國代理公使 廖恩燾

日本外務大臣伯爵 内田康哉閣下

二三 三月十日(發) 内田外務大臣ヨリ
在中國小幡公使宛(電報)

駐日中國公使館ヨリ大正四年締結ノ日中條約
廢棄ニ關スル公文ノ外務省宛送付振リニ關ス
ル件

第一二六号

第二〇九号 至急

外交部秘書熊垓十日大正四年五月二十五日締結ノ日支條約
及換文ノ廢止ニ對スル公文ヲ持參セリ右ハ同文ノモノヲ駐
日代理公使ヨリモ貴大臣ニ同日手交セル管ナルモ為念訳文
別電第二二〇号ノ通り電報ス公文寫至急郵送ス

上海、広東、漢口、奉天、遼陽へ転電セリ

編註 別電第二二〇号見当ラズ

二五 三月十日(着) 在米國壇原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国ノ大正四年締結ノ日中條約破棄運動ニ付
米國國務長官トノ会谈内容報告ノ件

第一六〇号

三月八日(木曜) 國務長官定例接見日ニ付往訪貴電第九二
号及第九四号ノ旨ヲ話シタルニ長官ハ帝國政府ノ好意ヲ深
謝セリ

次ア本使ハ支那特別關稅會議委員選任ニ付米國政府ニ於テ
ハ何等詮議ノ次第アリヤ又英國政府ノ希望ハ各國何レモ在
支公使ヲ主席委員ニ任命スルニアリト承知スルモ之ニ對シ

一 大正四年五月日中兩國間締結条約ノ効力問題 二五

三月十日支那公使館江書記官鮭延人事課長ヲ來訪シ一封ノ
書面ヲ出シ其ノ受領ヲ求メタルニ付鮭延ハ其ノ内容如何ヲ
尋ネタルニ江書記官ハ内容ハ承知セサルモ兎ニ角受領アリ
度シト述ヘ書面ヲ遺シテ勿惶辭去セル趣ナルカ之ヲ開封セ
ル処日支條約廢棄ニ關スル公文ナリシニ付直チニ鮭延ヲシ
テ支那代理公使ヲ訪問セシメ本書面ヲ人事課長ニ手交セシ
メタル理由ヲ訊サシメタル処同代理公使ハ鮭延ヲ文書課長
ナリト誤解シタル旨説明セルニ依リ鮭延ハ予ハ文書課長ニ
アラサレハ改メテ普通ノ手続ニ依リ提出アリ度旨申入レ同
書面ヲ返却シタリ然ル処同日江書記官ハ更ニ文書課ニ來リ
右書面ヲ受付ラレ度旨ヲ述ヘテ立チ去レリ尚右公文ニ八十
日ヲ以テ貴官ニモ同文ノ照会ヲ發セル旨記載アリ
尚支那政府ノ公文内容ハ電報ニ及ハス
右貴官限リ御含迄

二四 三月十日(發) 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国外交部ヨリ大正四年締結ノ日中條約廢棄
ノ正式申出ニ關シ報告ノ件

何等意見宣明ノ機會アリシヤト問ヒタルニ長官ハ右會議ニ
ハ猶時日モアルコトニテ未ダ委員選任ニ就キ何等考慮シタ
ルコトナシト答ヘ又支那ノ大正四年日支條約破棄運動ハ御
承知ノ通りナルガ支那政府ハ本件ニ關シ各國政府ノ意向ヲ
探聞シツツアルヤニモ聞知スル処右ニ就キ何等本使ニ与ヘ
得ベキ報道ナキヤト問ヒタルニ長官ハ米國政府ノ關スル限
リ支那政府ヨリ未タ何等意見ヲ求メラレタルコトナシト断
言シ斯ル運動アルコトニ就テハ單ニ「インフォメーショ
ン」トシテ在支公使ヨリ報告アリタルノミト付言セリ依ツ
テ本使ハ此機會ニ於テ本件ニ對スル帝國政府ノ態度ヲ長官
ノ承知ニ入レ置キ度ク右ハ無用ニ非ザルベキヲ信ズト前提
シ自己ノ關スル限リ帝國政府ハ未ダ支那政府ヨリ何等交渉
ニ接セザルモ仮令今後接スルコトアリトモ斯ル提議ハ帝國
政府ニ於テ寸毫考慮ノ余地ナキハ加藤首相及内田外相ノ議
会ニ於ケル答弁ニ徴スルモ明カナリ而モ華府會議ニ於テ好
ク明カニセラレタル我對支政策ノ變更ヲ意味スルモノニ非
ズト述ベ國務長官ノ「レマルク」ヲ引出スコトニ努メタル
モ長官ハ唯默許シタルノミナリ

編註 外務大臣發第九二号及第九四号ハ在本邦米國大使 Cyrus

E. Woods ノ任命關係ノ電報ナリ

二六 三月十日(発) 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

二十一箇条問題ニ関シ仏国公使ノ吉田参事官
ヘノ内話報告ノ件

第二二一号

二十一箇条問題ニ関シ仏国公使九日吉田ニ左ノ通り内話セ
リ

外交総長ノ旨ヲ含ミテナルベク王克敏本日来訪各国政府ノ
意向ヲ問ヒシニ対シ自分ハ華盛頓議定事項ハ日本凡テ之ヲ
実行シ終リシノミナラズ會議ニ於ケル日本全權ノ声明ハ明
確ナリ仏国全權ハ言フ可キ事無カリシニ付言ハザリシモ米
国全權ハ明白ニ條約ノ有効ヲ認メタリト告ゲタルニ王ハ私
見ヲ尋ネシニ付自分ハ支那ガ無効ヲ主張セバ民国成立以來
同様ニ取扱ハルベキ條約鮮カラズ而シテ日本ガ日支親善ノ
為トシテ是迄為シタル多大ノ讓歩ニ飽カズシテ尚一步ヲ進
メントスル支那ニ対スル從來ノ政策ニ対シ加藤首相ハ既ニ
日本ニ於テ既ニ盛ニ攻撃セラレ居ル状態ニ付支那ガ本件ヲ

会ニ提出セル旨報道シ居ル処董杭時ナルモノハ如何ナル
経歴党派ノモノニシテ如何程ノ勢力アルモノナリヤ参考ノ
為承知シ度ニ付成ルヘク詳細御取調ノ上回電アリ度シ

二八 三月十三日(発) 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

大正四年締結ノ日中条約廢棄ノ中国ヨリノ申出

ニ対スル日本政府ノ回答ニ関スル件

第一三三号

貴電第二〇九号往電第一二六号ニ関シ帝國政府ハ慎重審議
ノ結果別電第一三四号通り回答スルコトニ閣議決定セルニ
付三月十三日摂政宮殿下ノ御裁可ヲ經タル上三月十四日午
前十時廖代理公使ノ来訪ヲ求メ之ヲ手交スル筈ナリ就テハ
右御裁可済ノ上ハ更ニ直ニ電報スヘキニ付貴官ニ於テモ十
四日午前右回答文ヲ本大臣ノ訓令トシテ外交部ニ送達方取
計ハレタシ尚十四日回答文手交済ノ上ハ新聞紙ニ發表ノ筈
ニ付貴方ニ於テモ同時ニ發表セラレ差支ナシ

編註 後掲三月十四日外務省公表(三一文書) 参照

列国又ハ國際連盟ニ訴ヘ以テ日本ノ感情ヲ害スルコト最不
可ナリ然シドノ途支那ハ何物ヲモ日本ヨリ取り能ハザル可
シト述ベシニ王ハ自分ハ本日外交総長ニ面会シ文案ヲ見タ
ルニ廢棄ノ通告ナリシト語リシニ付自分ハ此通告ヲナサズ
交渉ヲ申込マバ外交上ノ所謂「プロセージュル」ニシテ何時
ニテモ問題ヲ提起シ得ベキ訳ナリ兎ニ角小幡公使ト内談ス
ル事妙ナル可シト告ゲ置ケリ政府ハ国会ノ監視ノタメ鮮カ
ラズ悩マサレ居ル模様ナリ

五日英國公使ト意見ヲ交換セシガ前述國際連盟ノ点ニ付テ
ハ同公使始メ同意見ナラサリシモ遂ニ自分ノ説ニ全然一致
セリ

二七 三月十一日(発) 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

董杭時ナル人物ニ付問合セノ件

第一二七号

三月六日朝日北京特電ハ衆議院議員董杭時カ過般帝國議會
ニ於ケル床次政友会総務ノ日支條約ニ関スル演説ヲ引用シ
テ政府ニ二十一ヶ条ノ無効宣布ヲ督促スル意味ノ質問ヲ国

二九 三月十三日(発) 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

董杭時ノ出身地経歴等報告ノ件

第二二二号

貴電第一二七号ニ関シ

董杭時ハ浙江出身ニテ「ジョシヤクリン」ノ門弟ナリ浙江
法政学校卒業後日本政法大学ニ留学シ第一革命ノ際北討隊
ニ加入ス南北統一後郷里ニテ私学ヲ開キ子弟ヲ教養シタル
コトアリ省議會議員タリシ後参議院議員ニ当选シ財政常任
委員トナル国会解散後再ヒ視察ノ為本邦ニ渡航シ国会回復
後再ヒ参議院議員トナリ今日ニ至ル黄外交総長トハ同郷且
革命當時ノ縁故ニテ近接セル由ナルモ議院ニ於テハ差シタ
ル勢力ヲ有セス特ニ党籍ナキモ政学会派ニ近シトノコトナ
リ年齢四十七、八歳ナリ

三〇 三月十三日(発) 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国政府ノ大正四年締結ノ日中条約廢棄申出
ニ対スル日本側ノ回答振りニ付黄外交総長ヨ

リ希望表明ノ件

第二二三号

十二日王克敏極内密ニ黄外交総長ノ依頼ヲ受ケタル趣ヲ以テ本使ヲ来訪シ一昨十日ノ照会ハ国会ノ決議国民ノ輿論ノ手前モアリ支那政府及外交総長トシテ万已ムヲ得ス提出シタル次第ニシテ該照会ノ末段ニ期日ヲ指定シ商議云々ヲ希望シタルハ何ントカ局面ヲ該條約改訂ニ展開セント欲シタルカ為ニシテ而モ右照会ニ明カニ改訂ヲ明言スレハ條約ノ効力ヲ認定シ国民ノ非難ヲ招ク虞アリ又單ニ無効ノ通告ノミニ止ムレハ日本ヨリ峻拒の回答ヲ受ケ交渉ノ余地無キニ至ルヲ以テ特ニ細心ノ注意ヲ以テ該照会ノ如キ内容ト成レル黄総長苦心ノ有ル処ヲ述ヘ尤モ支那側ニ於テモ今回ノ照会ヲ以テ或ハ日本ヨリ承諾ヲ得ヘキモノトハ勿論考ヘ居ラサルモ其ノ回答カ何等ノ緩ナク無下ニ峻拒スルカ如キ内容ナルニ於テハ徒ラニ支那国民ノ感情ヲ傷付ケ兩國ノ關係ヲ此ノ上益々惡化スルコトヲ黄ニ於テ頻リニ憂慮シ居ル次第ヲ語リ日本ニ於テ何等カ改訂ニ応スルノ意思ナキヤ又日本ノ回答ノ素氣ナキ峻拒的ノモノナラサル様切ニ希望スル旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ政府当局カ議會其ノ他ニ言明セラレ

タル趣旨ヲ敷衍シ体良ク応答シ置ケリ尚王ハ別ルルニ臨ミ右談話ノ趣旨カ外交総長ノ話ナルコト及王カ其ノ使ト成レル事實カ外間ニ漏ルルニ於テハ兩人ノ一身上ニ由タシキ關係ヲ及ホス次第ニ付絶対秘密ニ付セラレ度シト呉々申添ヘタルニ付本使ハ之ヲ承認シ安心シ然ルヘキ旨答ヘ置ケリ本件ハ其ノ御含ニテ御取計ヲ請フ

三一 三月十四日 外務省公表

中国側ヨリノ大正四年締結ノ日中條約及ビ交換公文廢棄通告ニ対シ回答ノ件

換公文廢棄通告ニ対シ回答ノ件

公表第六号

本月十日在本邦廖支那代理公使ヨリノ来翰ニ対シ(右内容ハ三月十一日發表ノ通)内田外務大臣ハ本十四日午前十時右代理公使ノ来訪ヲ求メ左記ノ通回答ヲ手交セリ尚同日北京ニ於テモ小幡公使ヨリノ同文回答ヲ支那外交部ニ交付ノ答ナリ

左記

以書翰啓上致候陳者貴国外交部ノ訓令ニ基キ本月十日付貴翰ヲ以テ大正四年五月二十五日締結ノ日支條約及交換公文

聲明シタル次第ニテ此上更ニ變更スヘキモノ絶対ニ無之コトヲ茲ニ聲明致候從テ貴信御来示ノ旅順大連接收辦法及本件條約及交換公文廢棄後ノ善後措置商議方ニ關スル貴国政府ノ提議ニ対シテハ何等應酬スルノ必要無之候
右回答旁本大臣ハ貴下ニ対シ茲ニ重テ敬意ヲ表シ候

敬具

追而在支帝国公使ヨリモ貴国政府ニ宛テ本文ト同様ノ公文ヲ發送為致候念ノ為申添候也

三二 三月十七日(発) 在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

英国公使ハ黄外交総長ニ二十一箇條條約廢棄ハ愚策ナリト述ベタル旨ヲ同公使内話ノ件

第二四三号

十七日英国公使ヲ往訪ノ節同公使ハ開口一番実ハ支那政府カ大正四年條約廢棄ノ公文ヲ日本ニ提出前黄外交総長ニ面会ノ際自分ハ何等本國政府ノ訓令ヲ受ケタル次第ニアラス全然自分一個ノ考ナルモ聞ク所ニ依レハ支那ハ日本ニ対シ二十一ヶ條ノ廢棄通牒ヲ送ルトノコトナルカ苟クモ有効ニ

成立セル條約ヲ締結國一方ノ都合ニ依リ勝手ニ廃棄又ハ變更ヲ試ミントスルカ如キハ支那ニ取リ最モ賢明ナラサル措置ニシテ日本ハ已ニ華府會議ニ於テモ其ノ立場ヲ最明確ニ宣明シ讓ルヘキモノハ已ニ讓リタル今日支那ハ今更無益ノ問題ヲ起シテ日本ノ感情ヲ Irritate スルカ如キハ甚タ面白カラスト述ヘ置キタル旨ヲ内話シ何レニスルモ本件ハ支那政府カ國會及國民ニ對スル關係上已ムヲ得ス執リタル措置ナルモ甚タ愚策ナリト付言セルニ付本使ハ其好意ヲ謝シタル上近來ノ如ク國會カ其ノ職權ヲ越エテ事毎ニ國務ニ容嘴スルカ如キハ吾々外交問題處理上ニモ甚タ好マシカラサル傾向ナリト答ヘタルニ對シ同公使モ至極同意ノ旨述ヘタリ

右ハ英國公使ヨリ Confidential トシテ内話セル次第第二付外間ニ洩レサル様特ニ御留意アリタク尙貴電第一四〇号ノ件ハ英國公使館ニ説明済ナリ

編註 内田大臣発第一四〇号見当ラズ

ノ模様ヲ自分(極東部長)ニ話サレタルニ付自分ハ長官ニ對シ余程以前ニ本件ニ付佐分利ト審議ヲ試ミタルコトアリ(往電第七四九号)其ノ際自分ハ日支條約ハ prima-facie ニハ條約ナルコト疑ナク若シ其ノ効力ニ付意見ノ相違アラハ夫ハ日支間ノ問題ニシテ米國トシテハ之ニ介入スルノ意思ナキ旨ヲ述ヘ置キタルコトヲ告ケタルニ長官ハ右自分ノ意見ヲ是認シタリ

(ロ)支那ハ山東問題ニ付世論ヲ喚起シ得タル如ク今回ノ日支條約取消問題ニ付テモ同様世論ヲ喚起シ得ルカ如ク考フルモノアルモ右ニ對シテハ自分(極東部長)ハ常ニ兩者ノ全然性質ヲ異ニスルモノナルコトヲ説示シ來レリ

二、我方回答文ハ十四日当館ヨリ公表シ十五日大多數ノ新聞ハ其ノ全文ヲ掲載セルモ第一面ニ掲載セルハ華府「ポスト」ノミニシテ今日ノ所本件ニ關スル論説ハ一モ見当ラス当國輿論ハ本件ニ關シテハ差当リ冷淡ナルカ如ク認メラルモ今後ノ形勢ハ注意スヘシ

在欧洲各大使ヘ転電セリ

編註 一 外務大臣ノ第一〇五号電報ハ見当ラザルガ右ハ本件日本

政府ノ回答ヲ米國政府ニ通報セシメタルモノナラン

三三 三月十七日(着) 在米國壇原大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

中国ノ大正四年ノ日中條約廢棄ニ對スル我方回答ニ關スル米國務長官ノ態度及ビ極東部長ノ内話報告ノ件

第一七四号

貴電第一〇五号ニ關シ

一、三月十四日佐分利ヲシテ極東部長ニ我カ回答英訳文ヲ手交シ國務長官ヘ転交方ヲ依頼セシメ置キタル後翌十五日本使同長官ニ面会ノ節右我カ回答文ヲ閲読セラレタルヤヲ問ヒタルニ同長官ハ未タシ尤モ新聞紙上ニ現レタルモノト同一ナルヘシト答ヘタルニ付本使ハ更ニ國務長官カ本件ニ關シ如何ナル意見ヲ有セラルルカハ帝國政府ノ知ラント欲スル所ナルヘシト述ヘタルニ同氏ハ本件ニ關シ何等意見ヲ回示スルノ意ナキヲ明言ス

尚前記佐分利往訪ノ際極東部長ハ支那今回ノ遣口ヲ(脱)非難シ又最近支那政府ノ米國ニ對スル態度ニ付テモ不平ヲ漏シタル趣ナルカ其ノ内話中左ノ二点ハ注意ニ値ス

(イ)過日國務長官ハ壇原大使ト会見(往電第一六〇号)後其

2 前掲壇原大使三月十日着電報参照
3 在米國大使館ノ第七四九号ハ大正十一年ノ電報ト思ハルガ見当ラズ

三四 三月十七日

在中国小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛

駐中米國公使「シャーマン」ノ对中国意見ニ關シ申進ノ件

機密第二六一号

大正十二年三月十七日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉

外務大臣 内田 康哉殿

在支米國公使「シャーマン」ハ從來屢々本使ニ對シ支那ノ現状ニ付頗ル不満足ノ意ヲ漏シタルコトアリシカ本月十四日本使來訪ノ節モ又此ノ点ニ言及シ支那ノ國情日々ニ惡化シ到底当分拾収ノ見込ナキヲ憤慨シタル後自分カ曩ニ華盛頓誕生日ニ於テ試ミタル演説ノ如キ自分ノ所感ヲ忌憚ナク大胆ニ披瀝シタルモノニシテ駐外使臣トシテハ任國ノ政府

及國民ニ對シ聊カ儀礼ヲ失シタルヤノ嫌アルモ而モ自分ハ支那ノ現状ヲ十分知悉セサル大多數米國民ニ極東ノ事情ヲ幾分ナリトモ理解セシムル考ヲ以テ右演説ヲ為シタルモノナリ万一之カ為自分ハ支那政府ヨリ *persona non grata* トシテ取扱ハルルモ少シモ恐ルル所ニ非スト案ヲ叩キ述ヘ立テタルヲ以テ本使ハ貴使ノ演説ハ誠ニ能ク支那ノ実狀ヲ道破セルモノニシテ右ハ半ニ米國民ニ支那ヲ理解セシメ大ニ *instructive* ナリシノミナラス他ノ諸外國民ニ對シテモ同様ニ有益ナル演説ナリト述ヘタルニ同公使ハ他ノ公使ヨリモ同様ノ意見ヲ聞キタリトテ満足ノ体ニ見受ケラレ候同公使ノ支那ニ對スル感想如上ノ如クナルニ顧ミルトキハ同公使力數日前竊ニ一友人ノ宅ニ於テ黃外交總長ト会见シ二十一ヶ条問題ニ付支那ヲ煽動スルカ如キ行為ニ出テタリ(往電第二三〇号)トハ聊カ信シ難キヤニモ考ヘラレ候モ右会见ハ例ノ筋^(編註)ニ探索ニ依レハ事實ナルモノノ如ク又貴電第一二九号「ヒューズ」ノ埴原大使ニ對スル態度等ニ顧ミ二十一ヶ条問題ニ對スル米國ノ態度ハ大ニ注視ノ必要アルモノト認メラレ候本使ニ於テモ同公使ノ態度ニ果シテ前記ノ如キ表裏アリヤ否ヤ此上トモ精探報道致スヘキモ何等御

ヒタルニ付其規定ナシト答ヘタル処同局長ハ自分ハ本問題ヲ好ク研究ハ致シ居ラサルモ條約カ一方ノ意志ニテ何等重大ナル理由モナク廢棄シ得ラルルモノニアラサルハ明ナリ從テ自分一個ノ意見トシテハ支那ノ申出ナルモノハ理由ナシト思ハルルモ尚一応大臣ニ右寫ヲ示シ談シ置クヘシト述ヘタリ

在歐各大使へ暗号ノ儘郵送シ在米大使へ転電セリ

三六 三月二十四日(發) 在北京坂西中将ヨリ
武藤參謀次長宛(電報)

二十一箇條條約廢棄ニ對スル元中國顧問「ウ
イルビー」ノ意見ニ付駐米中國代理公使ヨリ
本國政府宛電報ノ件

坂電第四五号 (三月二十六日外務省寫接受)
駐米代理公使ハ十二日付「ウイルビー」ノ二十一ヶ条ニ對スル意見ヲ政府ニ電報ス其要旨左ノ如シ

旅大問題ハ露支條約ヲ根拠トシテ期限満了ヲ声明シ世界ノ公評ニ訴フヘシ又二十一ヶ条ハ骨抜トナリアルモ支那ハ之ヲ否認スル能ハス依ッテ修正ヲ要求スルヲ可トスヘ

參考迄ニ前記ノ次第モ及報告候也

編註 「例ノ筋」ノ所欄外ニ外務省係官ニ依ル左ノ記載アリ
「土肥原特報例ノ筋ナルガ故ニ事實疑ハシ」

三五 三月二十一日(發) 在仏國松田臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中國ノ大正四年ノ日中條約廢棄ニ關スル仏國
政府ノ所見ヲ仏國外務省政務局長ニ問合ノ件

第二〇七号

在英大使宛電合第五三三号ニ關シ二十日政務局長ヲ往訪シ本件廢棄問題ニ関シ在支仏國公使ヨリ何等カ情報アリヤト尋ネタルニ何等入手セス唯新聞ニテ其事アルヲ知レルノミト答ヘタルニ依リ本件ニ關スル北京ニ於ケル運動及最近在本邦支那代理公使ヨリ愈々右廢棄ニ關スル公文ヲ帝國外務大臣ニ致セル成行ヲ述ヘ在英大使宛電合第五七号ノ寫ヲ英文ノ儘參考トシテ手交シタル上右支那政府ノ主張スル理由ハ甚タ不合理ノコトニ考ヘラルル処右ニ關スル仏國政府ノ所見ヲ知ルヲ得ハ幸ナリト付言シタルニ同局長ハ右文寫ヲ熟読シタル上該日支條約ニハ廢棄期限ノ規定アリヤト問

シ即チ該條約整理ノ意義ニ於テ無効ノ分ヲ削除スルヲ公平トスヘキモ支那側ニ大ナル利益無カルヘシ唯交渉中門戸開放ニ違反シ主權ニ抵觸スル個所ヲ削除シ平等條約トナセハ支那政府ハ其國民ニ對シ申訳立ツナラン(關東スミ)

三七 三月二十七日(發) 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

二十一箇條條約問題ヲ國際連盟ニ提出方伊國
政府ノ主張ニ關スル情報報告ノ件

第二八七号

例ノ筋ヨリ左ノ内報アリ御參考迄

外交部宛在伊支那公使二十三日付來電左ノ通
伊國政府ハ二十一ヶ条問題國際連盟ニ提出方主張シテ曰ク本問題ハ列國ノ在支均勢ニ抵觸スル所アリ故ニ之ヲ國際連盟ニ提出セハ列國ハ当然支那ノ為ニ助力スヘシト依テ政府ハ予定ノ順序ニ依リ直接日本ト交渉スルノ外國國際連盟起訴準備ノ要アリト信ス

三八 三月二十八日 (発) 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

中国國務會議ニ於ケル二十一箇条案約ニ関ス
ル第二回照会案審議ノ模様報告ノ件

付記 「東方通信」ニヨル中国參議院ニ於ケル二十一箇条
問題ニ関スル質疑応答ノ模様

第三〇二号

二十七日國務會議ニ二十一箇条ニ関スル第二回照会案提出
アリ沈外交部々務代理ハ国会ノ主張通り同条約否認ノ文句
ヲ入ルルハ巴里、華府會議ノ結果ヲ抹殺スルモノニテ国家
ノ信用ニ関スルトノ理由ニ依リ此挿入ヲ肯セス然ルニ總理
ハ右會議ハ法統政府ノ関与セシモノニアラサルニ付現政府
ハ之ヲ否認スルモ差支ナシト挿入ヲ主張シ王、沈ハ辭職
ヲ申出テ交通總長調停スル所アリ激論アリシモ決定ナカリ
シ由ナリ

往電第二八六号沈ノ暗号電文ハ『訂正スル所アリ後電ヲ待
テ』トノ意ナリシ由ナルカ右ニ依レハ案文ハ兎ニ角東京ニ
發送済ト見ユ

編註 小幡公使發第二八六号見当ラズ

アリヤ

「二十九日第九号ノ二」

總理答 政府ハ国会ノ意志ヲ變更シタルニアラズ唯外交上
順序アルニヨリ政府ハ第一歩第二歩ノ辦法ヲ講ズベク条約
無効ノ目的ニ到達スルハ時間ノ問題ニ過ギズ

議員問 政府ハ国会ノ決議ニ從ハザリシハ錯誤ナリ政府若
シ其責任ヲ負フ能ハザレバ總理ハ方ニ辭職シテ国人ニ謝ス
ベシ

總理答 之レ国家ノ重大問題ナレバ輕率ナル議論ヲ為スベ
カラズ政府ハ最後ノ辦法トシテ無効ノ宣言ヲ為スニ至ルベ
シ

議員曰ク 總理ハ宜シク政府ガ責任ヲ負フコトヲ言明シ若
シ失敗ヲ挽回シ能ハズンバ磊落ナル態度ヲ以テ憲政ノ軌道
ニ從ヒ国人ニ謝罪スベシ法統ノ恢復ヲ以テ自ラ任ズル張内
閣ニシテ中国ノ國權ヲ断送スル勿レ

議員又曰ク 總理ハ(一)我國国会ノ批准權(二)國際連盟條約ハ
米國上院カ同意ヲ拒ミシ為成立スル能ハザリシ先例ニ注意
シ対日交渉ノ根拠トナスベシ

「三月二十九日第九号ノ三」

(付記)

「東方通信」ニ依ル中国參議院ニ於ケル二十一箇条問題ニ関スル
質疑応答ノ模様

三月二十九日第九号 二十八日午後十二時北京發
二十九日午後三時半着

二十八日參議院ハ秘密会ヲ開キ張總理及外交當局ノ(条約
局長)出席ヲ求メ二十一箇条問題ニ就キ質問スル所アリタ
リ其大体ハ二十八日ノ二、三ノ通信社ニ依ッテ報道サレタ
ルガ本社ノ得タル確報ニ依レバ詳報左ノ如シ

議員問 二十一箇条ノ現状如何

總理答 日本ノ回答ハ強弁多シ政府ハ国会ノ意志ト国民ノ
希望ニ依リ更ニ交渉ヲ続ケ取消ノ目的ヲ達スベシ

議員問 国会ハ日支條約ノ無効決議シタルニ拘ラズ政府ガ
日本ニ致セル照会中ニ廢止ヲ要求セルガ廢止ト言ハバ即廢
止以前ハ有効トナル次第ナリ又国会ノ決議ハ法理上ノ手続
キナルニ僅カニ之ヲ以テ民意ヲ表示スルモノト為セルハ国
会ヲ蔑視セルモノナリ政府ハ何故ニ国会ノ意志ヲ變更シタ
ルヤ之ガ結果遂ニ日本ヲシテ條約廢止ハ不可能トノ回答ヲ
為サシムルニ至レリ政府ハ更ニ此ノ失敗ヲ挽回スルノ方法

議員又曰ク 總理ハ宜シク今後対外交渉ハ必ず予メ国会ト
打合セヲ為スベシ我國ノ主權ハ人民ニアレバ政府ハ国会ガ
定ムル方針ニ拠ルベク縱令国会ガ定ムル所ノ方針ニシテ錯
誤アリトモ總理ハ先ヅ之ニ從フノ覺悟ヲ要ス

議員又曰ク 政府ハ交渉ノ始メニ稍錯誤アリタルモ今後ハ
誠意ヲ披瀝シテ挽回ノ方法ヲ講ズベシ

總理答 本日外交部員モ出席シ共々諸君ノ討論ヲ拝聴セリ
今後政府ハ根本上ノ條約無効ニ根拠シテ進行ヲ図ルベシ

議員問 第二歩ノ挽回方法ニツキ説明サレタシ

總理答 今後ノ方法ニ就テハ政府ハ責任ヲ負フベキモ今説
明シ難シ

「二十九日第九号ノ四」

議員曰ク 總理ハ宜シク交渉繼續ノ方法ヲ準備シテ次回ニ
国会ト協議サレタシ

右問題ノ外尚議員ハ外交總長ノ辭職問題ニ就キ總理ニ質問
スル所アリ最後ニ張總理反對派議員ハ張總理ノ答弁ニ満足
セズシテ之ヲ罵倒シ議場大ニ混乱ニ陥リ議員紛々退場セル
為竟ニ此ノ問題ニ対スル參議院ノ態度ヲ決定スルニ至ラス
シテ散会セリ

更ニ来ル三十日継続開会ノ筈

編註 本文書ハ主トシテ『松本記録』ニ拠レリ。

『松本記録』トハ松本忠雄元外務政務次官ノ保管
セシ筆写本ニシテ現在外務省外交史料館所蔵ノモ
ノナリ。

事項二 長沙事件

三九 六月一日（発）在長沙田中領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

我が伏見艦水兵ト中国群衆トノ衝突ニ関シ報
告ノ件

第三一号

当地外交後援会主導ノ排日運動ハ官憲側ノ取締緩慢且威令
行ハレサルニ乗シ其ノ手段漸次露骨トナリ直接本邦人ノ生
命財産ニ危害ヲ（脱）実例ハ勘キモ本邦人商店及本邦汽船
出入ヲ妨害スル等行動皮肉トナリ在留邦人中ニハ往々不穩
ノ報復手段（脱）極力隱忍自制ヲ示スト共ニ支那側ニ取締
方引続キ交渉中ノ処今朝新規入港ノ日清汽船武陵丸著ニ際
シ前晚ヨリ排日団ハ從來ニナキ大規模ノ妨害ヲ為サント計
画中ノ模様アリタルヲ以テ当館ヨリ署長外館員三名ヲ日清
波止場ニ派シ実情ヲ視察セシム一方在港軍艦伏見ヨリモ約
十名ノ水兵武装セス散歩ナカラ現場ニ上陸セシニ群衆及当
館ノ注意ニ依リ支那側ヨリ派遣ノ支那兵数名ハ一団トナリ
水兵及現場ニ居合セタル本邦人ニ投石シ終ニ支那兵ハ銃ヲ

水兵ニ擬スルニ至リタリ小官ハ辛ウシテ電話ヲ以テ（朝来
本邦人関係ノ電話ハ絶エス通話ヲ妨ケラレツツアリ）取締
ハ一応支那側ニ一任シテ水兵ハ引揚クル様取計ヒタルニ行
違ニ軍艦ヨリ武装兵約十五名上陸群衆ト対峙中必要ニ応シ
空砲ヲ打ツ内群衆接近シ水兵ノ銃ヲ奪ハントセルヲ以テ水
兵ハ遂ニ発砲シ二名ヲ殺シ一名ヲ負傷セシメタリ同艦長ハ
事態一層拡大スルヲ顧慮シ間モナク水兵全部ヲ引揚ケタル
カ群衆一層激昂シ一部ハ交渉使署ニ殺到シ右殺傷ニ対スル
交渉方ヲ迫リ大部ハ尚日清波止場ニ集合シ挙動不穩ナリ本
官ハ危険ヲ冒シ交渉司長ニ会见ノ為日清ニ行キシカ目的ヲ
達セス帰館ノ上同人ト相互ニ面談スルヲ得サル実情ナリシ
ヲ以テ辛ウシテ電話ヲ以テ通話スルヲ得タルヲ以テ大体ノ
打合ヲ為シ本日ノ出来事ハ更メテ交渉ニ附スルコトトシ差
当リ支那側ヨリ責任アル指揮者ヲ有スル軍隊ヲ派シ徹底的
ニ取締警備ニ任スルコトヲ要求シ尚先方ハ軍艦ノ行動ヲ非
難シ民心激怒ヲ防ク為一先ツ下流ニ出港スルコトノ要求ア
リシカ本官ハ從來支那側ノ取締振ニ鑑ミ取締徹底スルヲ見